

# 令和4年度上下水道事業懇話会 (令和3年度事業)

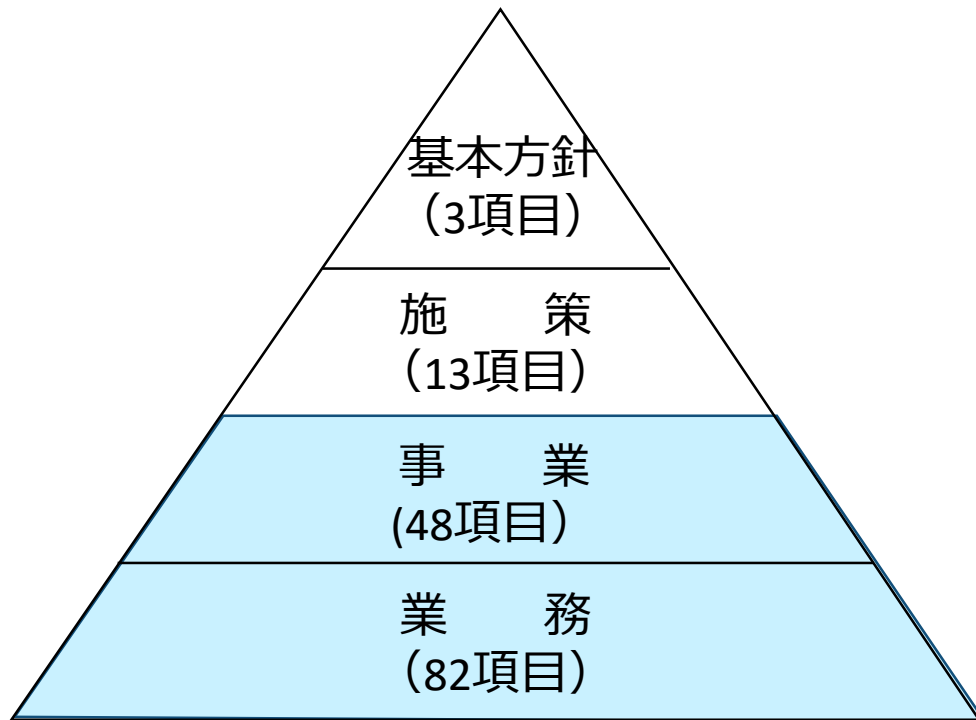
令和4年6月23日 (木)

上下水道局本庁舎 災害対策会議室A・B

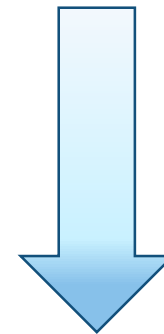
（経営診断書 P.39）

上下水道ビジョンに掲げる中期目標の達成に向けて、毎年度の取組をまとめた単年度実施計画を策定

## 【上下水道ビジョンの構造】



上下水道ビジョン  
【H28～R7】

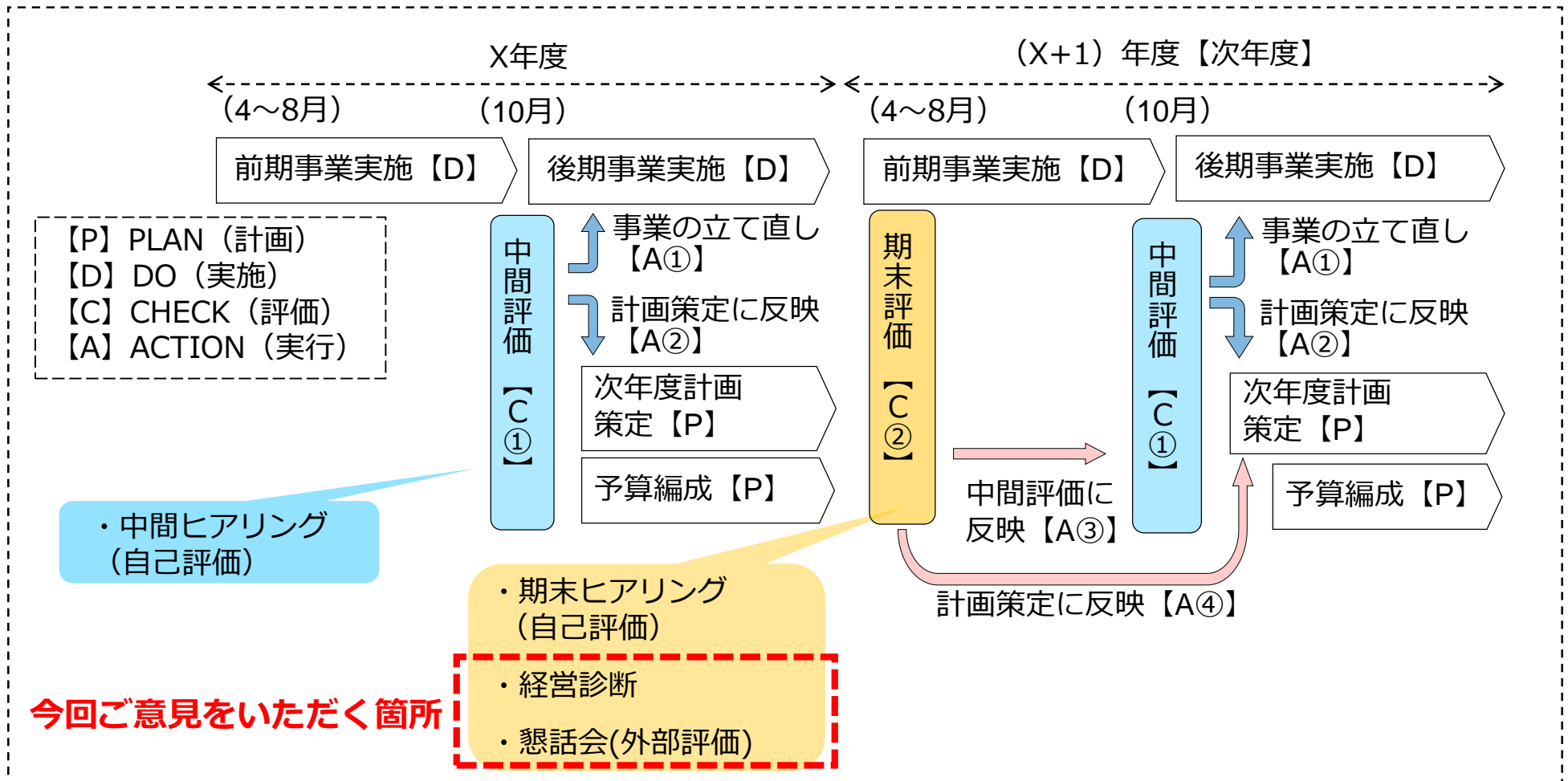


単年度実施計画  
(毎年度の策定)

（経営診断書 P.1~4）

- 単年度実施計画の進捗状況の管理として、PDCAマネジメントを実施

## 【PDCAマネジメントの仕組み】



以下、2つの方法で経営診断を行う。

(1) 単年度実施計画の計画評価（事業実績・達成状況）



『計画の進捗度』を評価

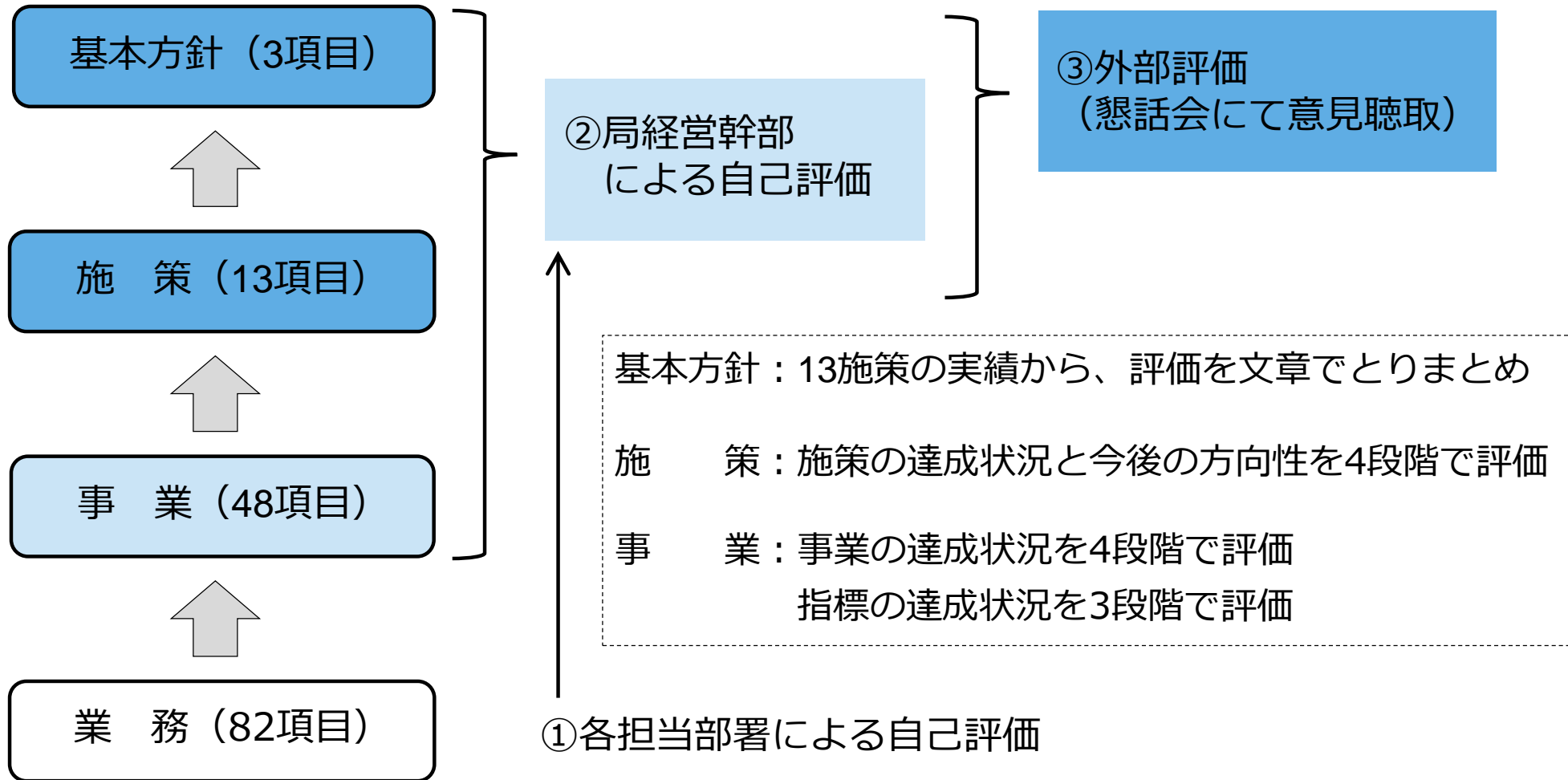
(2) 決算結果に基づく経営分析（経営指標・財政計画）



『経営の健全度』を評価

# 単年度実施計画の計画評価 (事業実績・達成状況)

(経営診断書 P.39)



(経営診断書 P.47~48)

## ○施策（13項目）評価

### ■ 達成状況

- 「s」 目標を越えて達成した。
- 「A」 目標を達成した。
- 「B」 目標を概ね達成した。
- 「C」 目標を達成しなかった。

### ■ 今後の方向性

- 「拡充」 施策の規模拡大や達成時期の前倒しをする。
- 「持続」 施策の進捗に滞りが無く、取組みを持続する。
- 「改善」 施策に進捗に課題があり、取組みを改善する。
- 「縮小」 施策の規模の縮減や達成時期を延期する。

## ○事業（48項目）評価

### ■ 達成状況

- 「s」 目標を越えて達成した。
- 「a」 目標を達成した。
- 「b」 目標を概ね達成した。
- 「c」 目標を達成しなかった。

### ■ 指標評価

- 「◎」 目標を越えて達成した。
- 「○」 目標を達成した。
- 「★」 目標を達成しなかった。

(例) 配水池の耐震化率

指標評価	R2年度 実績	R3年度 実績	R3年度 目標値	達 成 状 況	
配水池耐震化率 (%)	77.4	77.4	77.4	○	R2年度実績： R3年度実績： R3年度目標：
(耐震化完了配水池総容量) / (配水池の総容量) × 100					

(経営診断書 P.40)

基本方針（3項目）	施策（13項目）
安全安心な ライフラインの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 安全で安心な水道水</li> <li>(2) 震災に強いまちの実現</li> <li>(3) 雨に強いまちの実現</li> <li>(4) 危機管理対策の推進</li> </ul>
将来に向けた 快適な暮らしの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 里道・私道の汚水整備（衛生的に暮らせるまちの実現）</li> <li>(2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現</li> <li>(3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新）</li> <li>(4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営）</li> <li>(5) 潤いと活力のあるまちの実現</li> <li>(6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減）</li> </ul>
しんらいを築く 堺の上下水道への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) お客様とのパートナーシップの形成</li> <li>(2) 人材育成の充実・運営体制の強化</li> <li>(3) 先進的な取組への挑戦</li> </ul>



## 【基本方針1】安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.51)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(1) 安全で安心な水道水		A	持続
事 業	主な実施内容		
①水質の管理 ②水安全計画の推進 ③貯水槽水道の管理 ④鉛製給水管の取替	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道GLPシステムのサーベイランス（中間審査）を受審</li> <li>・定期的な排水箇所の見直し（8か所追加、11か削減）</li> <li>・水安全計画の見直しを実施</li> <li>・鉛製給水管単独取替を200件実施</li> </ul> 【関連指標】鉛製給水管残存率 <b>5.3%</b> （目標5.4%）		
<b>【総評】</b> 残留塩素濃度等の連続監視や水質基準全51項目の自己検査の結果に基づく適切な水質管理を実施し、水質を悪化させる水道水の滞留防止に取り組んだ。また、鉛製給水管の取替や、小規模貯水槽水道の適正管理に係る啓発を計画どおり実施した。 これらにより、確実な水質の監視と水質事故等のリスク管理を進めた。			
<b>【方向性】</b> 今後も引き続き、適切な水質管理に向けた取組を進める。			

## 【基本方針1】安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.55)

施策名		達成状況	今後の方向性
(2) 震災に強いまちの実現		B	持続
事業	主な実施内容		
①優先耐震化路線の構築 ②配水池の耐震化 ③下水道施設の耐震化 ④津波対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先耐震化路線を8.0km構築 【関連指標】優先耐震化路線耐震化率<b>92.3%</b> (目標87.0%)</li> <li>家原寺配水池の耐震化工事に一部遅れが生じた。</li> <li>浜寺船尾町や新金岡町等の耐震化工事が完了 【関連指標】重要な管きよの耐震化率<b>97.7%</b> (目標97.7%)</li> </ul>		
<b>【総評】</b> 水道事業では、配水池の耐震化工事に一部遅れが生じたが、優先耐震化路線については、計画以上に進捗した。下水道事業では、下水道管きよの耐震化工事を計画どおり実施し、土木施設の耐震対策として地震対策方針を決定した。 これらにより、被災時の被害の未然防止や軽減に貢献した。			
<b>【方向性】</b> 今後も引き続き、今後も施設の耐震化や津波対策を進める。			

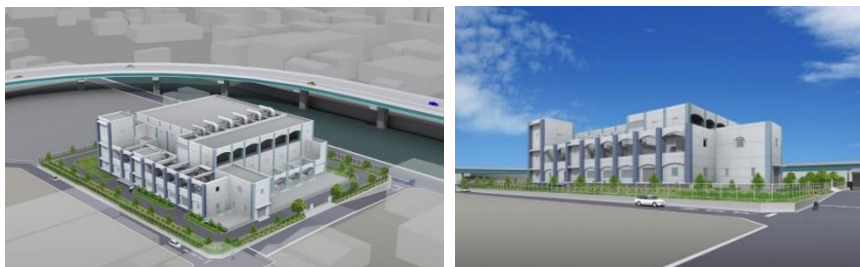
〔基本方針1〕安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.58)

施策名		達成状況	今後の方向性
(3) 雨に強いまちの実現		A	持続
事業	主な実施内容		
①雨水整備事業の推進 ②雨水貯留浸透の推進 ③情報収集・提供の充実 ④雨水施設の適切な管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水危険解消重点地区のうち金岡地区の実施設計業務が完了【関連指標】重点地区浸水対策実施率85.8% (目標85.8%)</li> <li>・ 想定浸水深を踏まえた、施設の耐水化計画を策定</li> <li>・ 古川下水ポンプ場建設工事は、地下4階から地下1階床部分の施工が完了</li> <li>・ 下水道施設の水位情報を市民に提供</li> </ul>		
<p>【総評】                      浸水危険解消重点地区のうち金岡地区の雨水整備を計画どおり進め、その他地区ではきめ細かい対策を行い、古川下水ポンプ場建設工事についても計画どおり施工した。                      また、雨水管理総合計画の検討や施設の耐水化計画を策定し、引き続き、下水道施設の水位情報を市民に提供し、自助・共助の取組を推進した。                      これらにより、浸水安全度の向上に貢献した。</p> <p>【方向性】                      今後も、雨に強いまちの実現に向け、浸水対策を進める。</p>			

## 古川下水ポンプ場建設工事

### ◆完成予想パース



### ◆ポンプ場概要

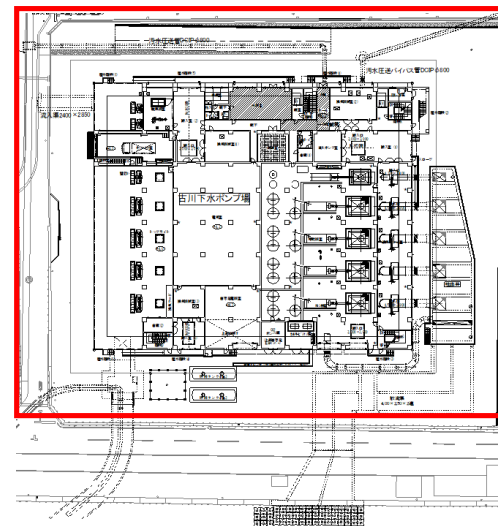
工事場所	堺市堺区神南辺町地内
大きさ	平面規模： 61.85m×73.70m (面積：4,558㎡) 地下4階、地上3階建
構造	鉄筋コンクリート造
ポンプ能力	約2,100m <sup>3</sup> /分

### ◆今後の工程（予定）

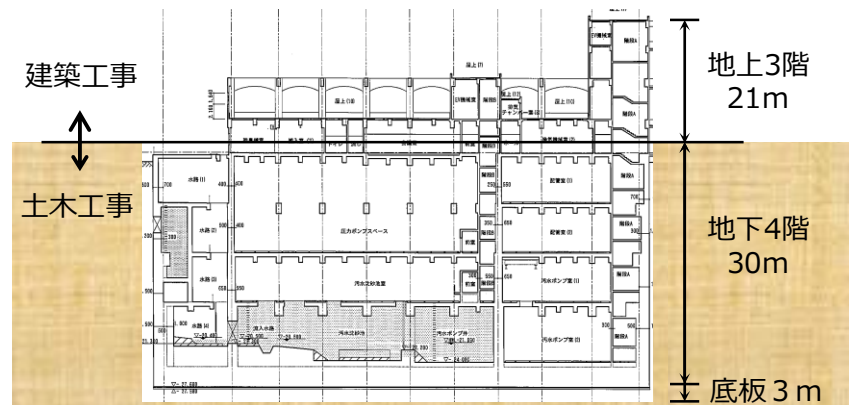
工事期間 H26~R7

主な工事内容	R3	R4	R5	R6	R7
放流渠、流入渠	■				
建築躯体、機械製作	■				
機器設置、場内整備			■		

平面図



断面図



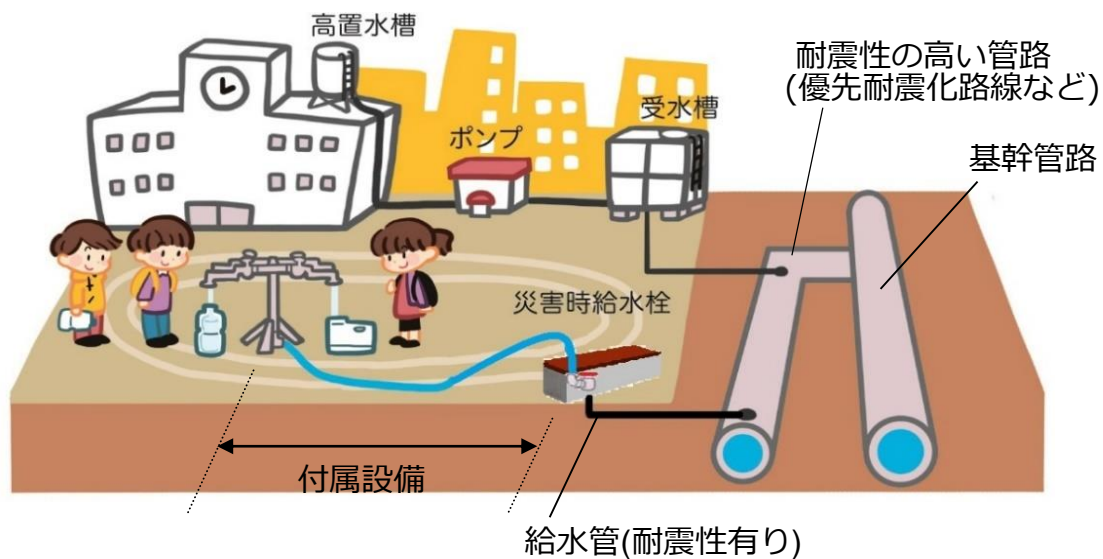
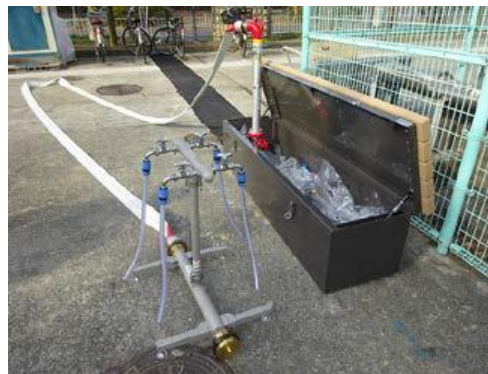
## 【基本方針1】安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.61)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(4) 危機管理対策の推進		A	持続
事 業	主な実施内容		
①災害対応力の強化 ②事故対策の強化 ③応急給水対策の強化 ④緊急連絡管の整備 ⑤電源の確保 ⑥マンホールトイレの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時給水栓を市立小学校等21箇所<sup>2</sup>に設置</li> <li>・マンホールトイレを堺区役所に設置</li> <li>・コロナ禍における複合災害を想定した訓練を実施</li> <li>・デジタルサイネージやTV会議システムなどの情報共有ツールを活用した訓練を実施</li> <li>・和歌山市水管橋崩落事故を受け、市内の水管橋（水道管）や懸垂管（下水道管）について速やかに点検を実施</li> </ul>		
<b>【総評】</b> ハード対策として、災害時給水栓を指定避難所となる全ての市立小学校等（93箇所）に設置が完了し、マンホールトイレを全区役所（7か所）に設置が完了した。 ソフト対策として、コロナ禍を想定した複合災害を想定した訓練等を実施し、マニュアル等の見直しを行うことで危機管理機能を強化した。 これらにより、被災時に市民生活への影響を最小限に抑えるための取組を推進した。			
<b>【方向性】</b> 今後も、危機管理対策として、ソフト対策やハード対策を進める。			



## 災害時給水栓 (すいちゃんのびっくり蛇口)



## マンホールトイレ



【基本方針2】 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.65)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(1) 里道・私道の汚水整備 (衛生的に暮らせるまちの実現)		A	縮小
事 業	主な実施内容		
①里道・私道の汚水整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本施策の整備目標は令和元年度に達成済み</li> <li>・ 地元住民からの調査依頼に基づき、10路線 (482m) の公共下水道の布設が決定</li> </ul>		
<p>【総評】                      これまで、私道公共下水道布設制度と私道排水設備工事補助金制度の2制度を運用していたが、申請件数の減少に伴い、私道排水設備工事補助金制度を令和3年3月をもって廃止した。                      令和3年度は、土地使用承諾を取得した里道・私道に対して、私道公共下水道布設制度による公共下水道の布設を進めた。</p> <p>【方向性】                      引き続き制度の運用を行うが、整備目標は達成しているため「縮小」とする。</p>			

【基本方針2】 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.67)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現		A	持続
事 業	主な実施内容		
①処理の高度化と安定化 ②合流式下水道の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泉北水再生センターでは、MBR施設の運用に関する取組を実施</li> <li>・ 三宝水再生センターでは、送風機の最適化に向けて試験運転を実施</li> <li>・ 合流式下水道の対策施設の適切な運用、水質をモニタリング</li> </ul>		
<p>【総評】</p> <p>安定した処理水質を確保するため、効率的な運転管理を継続して実施した。三宝水再生センターでは、更なる省エネルギー化に向けて取組んだ。なお、これらの取組による処理水質への影響はなかった。</p> <p>これらにより、処理水質を確保しながら効率的な運転を行うことができた。</p> <p>【方向性】</p> <p>今後も引き続き、水質管理と運転管理の工夫や、合流式下水道の改善対策施設の適切な運用に取り組む。</p>			



## 【基本方針2】 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.69)

施策名		達成状況	今後の方向性
(3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新）		A	持続
事業	主な実施内容		
①基幹管路（幹線管）の更新 ②配水支管の更新 ③水道管路の維持管理 ④配水池の維持管理 ⑤機械・電気・計装設備の更新 ⑥下水道設備のアセットマネジメント ⑦下水道管きよのアセットマネジメント ⑧下水道施設の統廃合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹管路（水道）更新工事を計画通り実施 【関連指標】基幹管路耐震化率<b>29.6%</b>（目標29.2%）</li> <li>・配水支管（水道）を23.5km更新 【関連指標】総水道管路耐震化率<b>30.3%</b>（目標29.6%）</li> <li>・簡易DB方式による設計・施工一括発注方式を試行し、発注から竣工までにかかる期間の短縮を確認</li> <li>・下水道管きよを計画どおり調査、堀上緑町など更新工事を実施 【関連指標】老朽管きよの調査率<b>84.8%</b>（目標83.0%）</li> </ul>		
<b>【総評】</b> 水道の基幹管路と配水支管を積極的に更新し、耐震化率は目標値を上回り、維持管理業務についても概ね計画どおり行った。下水道設備や管きよについても、アセットマネジメントに基づき調査、更新を計画どおり実施した。 また、令和5年度以降の水道・下水道施設の整備方針について懇話会で聴取し、新たなビジョンの策定を推進した。			
<b>【方向性】</b> 今後も引き続き、施設の維持管理や更新を進める。			

## 【基本方針2】 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.75)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現 (持続的な企業経営)		A	拡充
事 業	主な実施内容		
①資産・資源の有効活用による収入の確保 ②水洗化の促進 ③企業債の計画的な借入 ④受水費の削減 ⑤収納コストの削減 ⑤収納率の向上 ⑥資本費平準化債の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃止した施設跡地を売却し約3900万円の収入を確保</li> <li>・ 老朽管更新や計画的な漏水調査、不明水対策検討委員会での取組などにより、有収率が目標値を上回った。 【関連指標】有収率<b>93.4%</b> (目標93.0%)</li> <li>・ 漏水調査において監視型のセンサーを設置し実証実験を実施</li> <li>・ 大口使用者の水洗化や早期の債権回収に取組んだ。</li> </ul>		
<b>【総評】</b> 廃止した施設の売却や、水洗化促進や債権回収に取組み、収入確保につなげた。また、不明水削減の取組等により、有収率が目標値を上回る結果となった。さらに、新たなビジョンの策定に向けて、企業債の借入方針等について、懇話会で意見を聴取し、新たなビジョンの策定を推進した。これらの取組により、当初予算以上の純利益を確保することができた。			
<b>【方向性】</b> 今後もこれまでの取組に加え、新たな経営基盤強化策に取組む。			

〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.81)

施策名		達成状況	今後の方向性
(5) 潤いと活力のあるまちの実現		A	持続
事業	主な実施内容		
①再生水送水事業の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>堺浜地区について、令和3年度末で事業を休止した。</li> <li>鉄砲町地区について、適切な水質検査により基準値内であることを確認し、検査結果を利用者へ報告した。</li> </ul>		
<p>【総評】 堺浜地区については、事業を休止したが、鉄砲町地区については、適切に運用にかかる維持管理を行った。</p> <p>【方向性】 今後も鉄砲町地区において再生水送水事業を継続し、潤いのある水辺空間と活力のあるまちの創造に貢献していく。</p>			

## 【基本方針2】 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.82)

施策名		達成状況	今後の方向性
(6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減）		A	持続
事業	主な実施内容		
①受水圧を利用した送水システムの整備 ②小水力発電設備の設置（水道） ③省エネ・省CO2機器の導入 ④水再生センターの運転管理の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶器山新分岐の整備工事が完了し、ポンプ圧送していた送水の一部を、企業団送水管から直送が可能となった。</li> <li>・小水量発電設備については、定期点検等により平年より発電期間が短くなった。</li> <li>・泉北水再生センターにおいて、計画的にLED照明へ更新し、電気使用量削減に取り組んだ。</li> </ul>		
<b>【総評】</b> 受水圧を利用した送水システムの整備として、陶器山新分岐の設置に係る工事が完了し、今後の電気代削減や環境負荷低減に貢献できる見込みである。また、小水力発電については平年より発電期間が短くなったが、121kWhの電力を発電した。 水再生センターでは、省エネ機器への更新や、運転管理方法の工夫を行うことで、電力削減や薬品使用量削減を進めた。			
<b>【方向性】</b> 今後も引き続き、地球温暖化対策のため、環境負荷の低減に向けた取組を進める。			

### 本庁舎 駐車場棟屋上の太陽光発電システム（場所貸し）

（経営診断書 P.84）



#### 【経営改善効果】

- ・ 場所貸しについては、貸出料による**収入確保**
- ・ 自家消費については、電気使用量（**費用**）の**削減**

施設名	区分	形態	運用期間
浅香山配水場	水道施設	場所貸し	H27年10月～
三宝水再生センター	下水道施設	場所貸し	H29年4月～
		独自設置・自家消費	H28年3月～
泉北水再生センター	下水道施設	独自設置・自家消費	H24年3月～



## 【基本方針3】 しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

(経営診断書 P.85)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(1) お客さまとのパートナーシップの形成		A	持続
事 業	主な実施内容		
①双方向コミュニケーションの形成 ②お客さまとの協働体制の拡充 ③お客さま対応の向上と事業の啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の対面型広報をオンライン化 (取組が評価され、GKP主催の広報大賞で準グランプリ受賞)</li> <li>・局の重要取組等をまとめた「上下水道情報誌」を配布</li> <li>・利用者の声への対応状況の一部を局HPに掲載し、対応状況の見えるかを推進</li> </ul>		
<b>【総評】</b> 対面型広報のオンライン化をはじめ、ICT等を活用した様々な広報媒体を使用した広報を積極的に展開した。広聴分野では、利用者の多様な声を利用者サービスの向上や業務効率化に繋げ、利用者の声への対応状況が見える化を図った。また、令和4年度以降の営業業務（包括的民間委託）について、受注者選定における仕様書を作成するなど、円滑な業務推進に取り組んだ。これらにより、利用者との双方向のコミュニケーションによる広報・広聴、事業に反映する仕組づくりを進めた。			
<b>【方向性】</b> 今後も引き続き、利用者とのパートナーシップの形成に向けた取組を進める。			

## 対面型広報のオンライン化

(経営診断書 P.88)

### 「上下水道まなび隊」

\* 令和3年度に初のオンライン開催



(撮影の様子)

### 「上下水道出前教室」

\* 協力校3校の小学校を対象に試行実施



(開催の様子)

## 【基本方針3】 しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

(経営診断書 P.89)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(2) 人材育成の充実・運営体制の強化		A	拡充
事 業	主な実施内容		
①自ら考え行動する職員の育成 ②機能的、効率的な組織体制の確保 ③広域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の育成のため、知識・技術を習得するための支援や、資格取支援制度の効率的な運用に取組んだ。</li> <li>・ 市人事部と協力し「堺市職員ワーク・ライフ・バランス計画」を策定</li> <li>・ 民間事業者からの要望・提案等を募集するため、上下水道局ホームページ内に「公民連携プラットフォーム」を開設</li> <li>・ 羽曳野市、富田林市との3市で、水道施設の共同化に向けて課題を整理</li> </ul>		
<p>【総評】            次世代を担う職員を継続的に育成するため支援を進め、働き方改革プランである「堺市職員ワーク・ライフ・バランス計画」を、市人事部と協力して策定した。            また、近隣市との施設共同化に向けた協議などの水平連携や、公民連携手法の募集など民間事業者との対話を進めることで、運営体制の強化を図りました。</p> <p>【方向性】            今後も、人材育成や働き方改革、運営体制の強化をより推進していく。</p>			



## 【基本方針3】 しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

(経営診断書 P.93)

施 策 名		達成状況	今後の方向性
(3) 先進的な取組への挑戦		S	拡充
事 業	主な実施内容		
①先進的な取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道管路情報を市HPで閲覧できるよう整備</li> <li>・スマートフォンアプリ「すいりん」にクレジットカード決済を追加するなど機能拡充</li> <li>・工事共同WEB受付システムについて、大阪ガス・NTTの3市で実証実験を実施</li> <li>・スマートメーターの導入に向けて、新たに上下水道局本庁舎、及び南館で実証実験を開始</li> <li>・下水道施設におけるアセットマネジメントシステムを構築し、業務効率化を促進</li> </ul>		
<p>【総評】</p> <p>ICT技術などを活用し、水道管路情報の市HP公開などの利用者サービスの向上と、下水道施設のアセットマネジメントシステムの構築などの業務効率化に取り組んだ。</p> <p>中でも「すいりん」におけるクレジットカード決済機能などの拡充においては、日本水道協会が主催する「令和3年度イノベーション賞」の大賞を受賞し、取組内容について評価された。</p> <p>【方向性】</p> <p>今後も、上下水道事業の基盤強化に向けて、ICT等を活用・DXの取組を行い、先進的な取組への挑戦を進める。</p>			



(経営診断書 P.49)

施策(13項目)	達成状況	今後の方向性
<b>1. 安心安全なライフラインの確保</b>		
(1) 安全で安心な水道水	A	持続
(2) 震災に強いまちの実現	B	持続
(3) 雨に強いまちの実現	A	持続
(4) 危機管理対策の推進	A	持続
<b>2. 将来に向けた快適な暮らしの確保</b>		
(1) 里道・私道の汚水整備(衛生的に暮らせるまちの実現)	A	縮小
(2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現	A	持続
(3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現(施設の維持管理と更新)	A	持続
(4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現(持続的な企業経営)	A	拡充
(5) 潤いと活力のあるまちの実現	A	持続
(6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現(環境負荷の低減)	A	持続
<b>3. しんらいを築く上下水道への挑戦</b>		
(1) お客様とのパートナーシップの形成	A	持続
(2) 人材育成の充実・運営体制の強化	A	拡充
(3) 先進的な取組への挑戦	S	拡充

# 決算結果に基づく経営分析 (経営指標・財政計画)

(経営診断書 P.13~14)

## 【経営分析の目的】

- ・ 本市経年比較       事業の**改善度**を確認
- ・ 大都市平均値比較       本市の**特色・問題点**を確認

## 【経営分析の方法】

評価区分	分析のポイント
① 収益性	経営（収支）状況を判断
② 安定性	安定した事業運営を継続できるか判断
③ 効率性	施設能力に対する利用状況を判断
④ 料 金	料金（使用料）の水準が適正であるかを判断

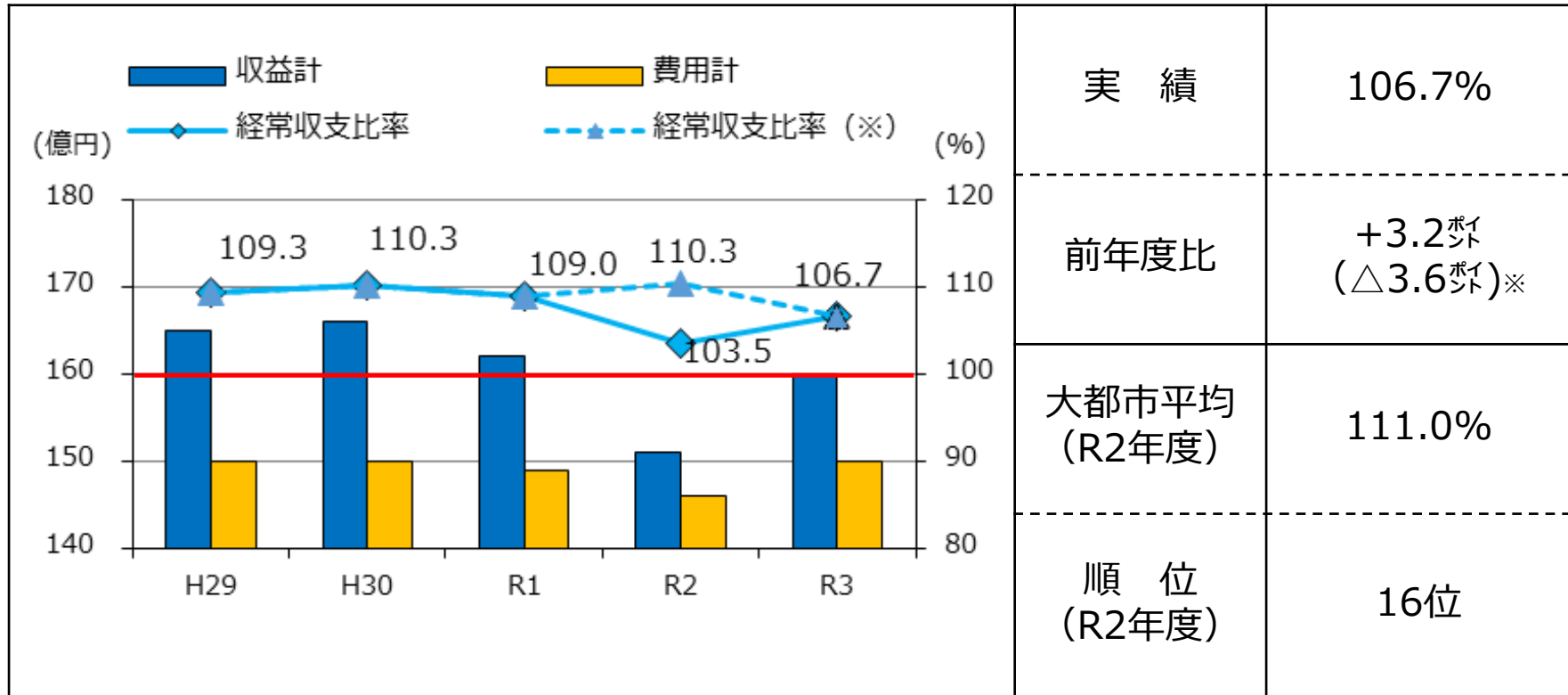
# 水道事業の経営分析

# ①収益性

(経営診断書 P.15)

## ■ 経常収支比率

[望ましい方向：↑]



- R2の水道料金の減額を控除すると、3.6ポイント低下。
- 受水費の増加 (R2企業団減免措置によるもの) ・給水収益の減少。

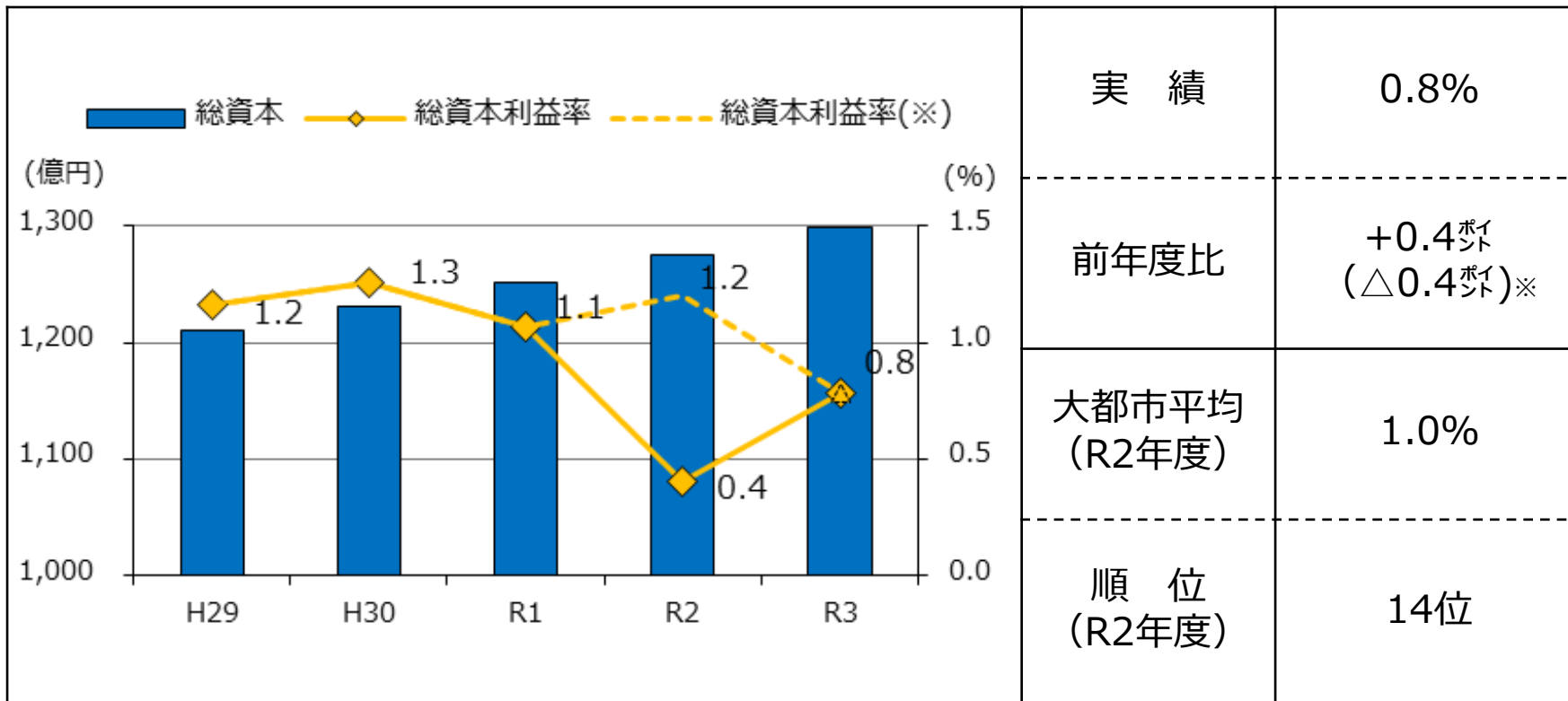
※R2実施の水道基本料金減額の影響を控除した場合との比較

# ①収益性

(経営診断書 P.16) ○

## ■総資本利益率

〔望ましい方向：↑〕



- 分子が経常損益のため、経常収支比率と同じ傾向。
- R2の水道料金の減額を控除すると、0.4ポイントの低下。

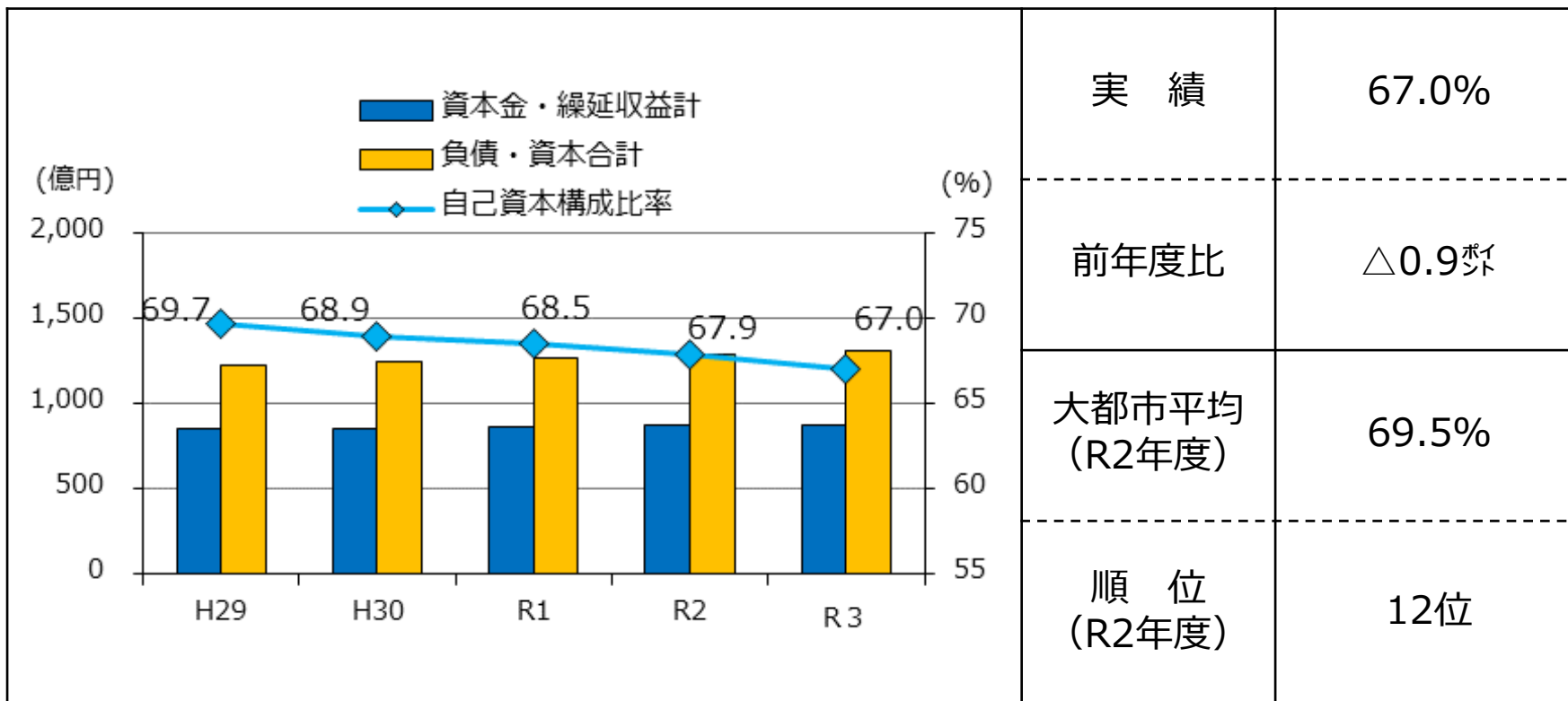
※R2実施の水道基本料金減額の影響を控除した場合との比較

(経営診断書 P.18)

## ②安定性

### ■自己資本構成比率

[望ましい方向：↑]



■企業債を借り入れや送配水管の改築更新により、企業債残高が増加。

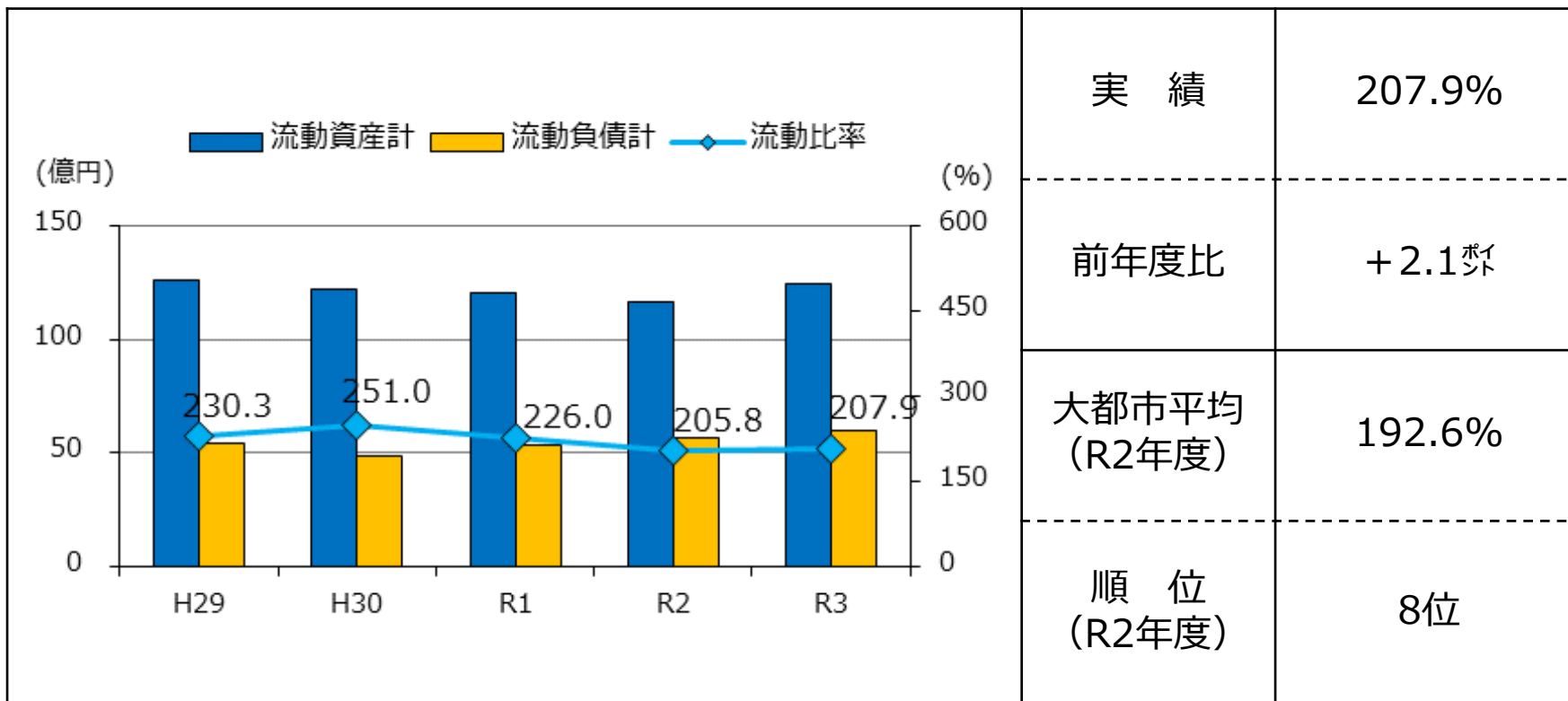


(経営診断書 P.18)

## ②安定性

### ■流動比率

〔望ましい方向：↑〕



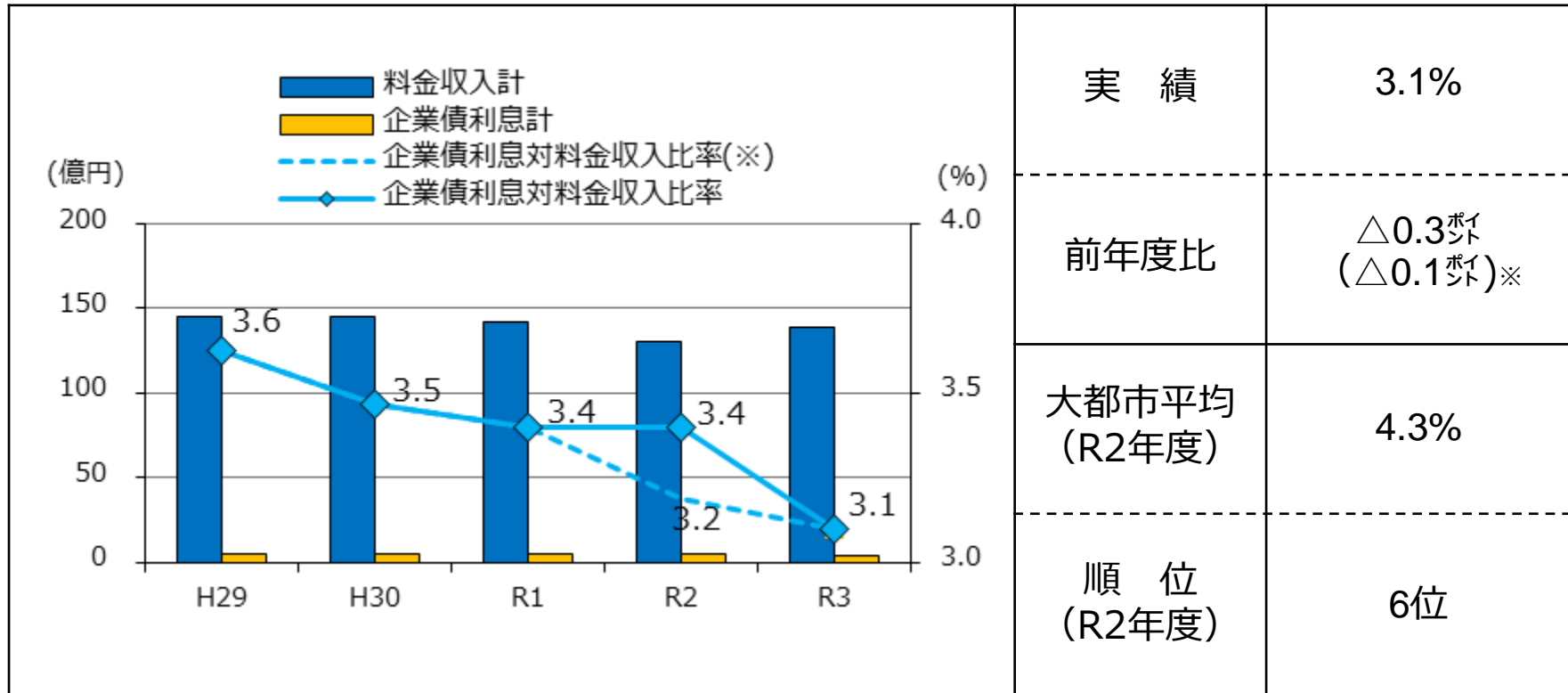
- 工事の繰越額増加に伴う前払金の増加により、2.1ポイント上昇。
- 大都市平均を上回っており、短期的な資金繰りは相対的に余裕がある。

## ②安定性

(経営診断書 P.19)

### ■企業債利息対料金収入比率

[望ましい方向：↓]



■ R2の水道料金の減額を控除すると、0.1ポイント低下。

■ 要因としては、平成初期に借り入れた高利率（3%以上）の企業債の償還が進んでいるため。

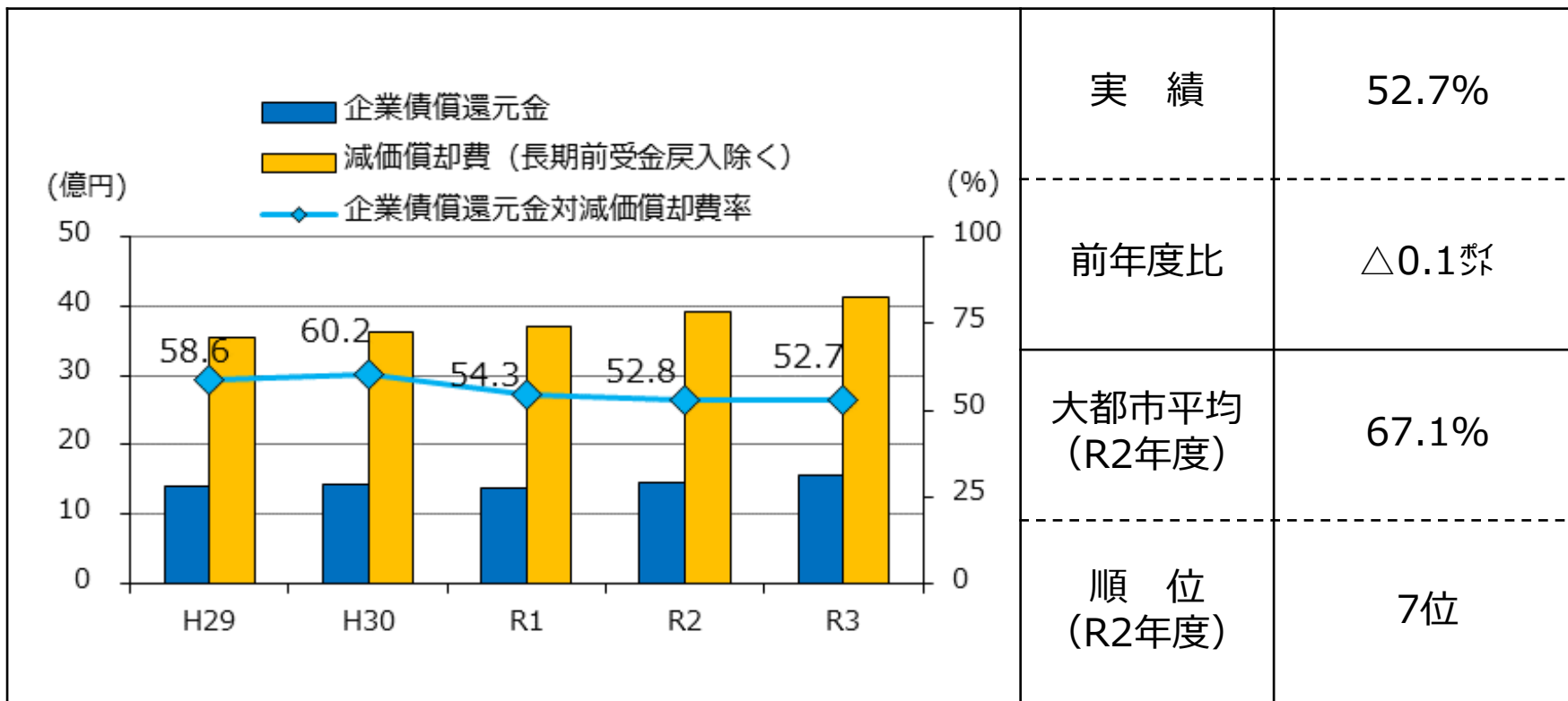
※R2実施の水道基本料金減額の影響を控除した場合との比較

(経営診断書 P.19)

## ②安定性

### ■企業債償還元金対減価償却費比率

[望ましい方向：↓]



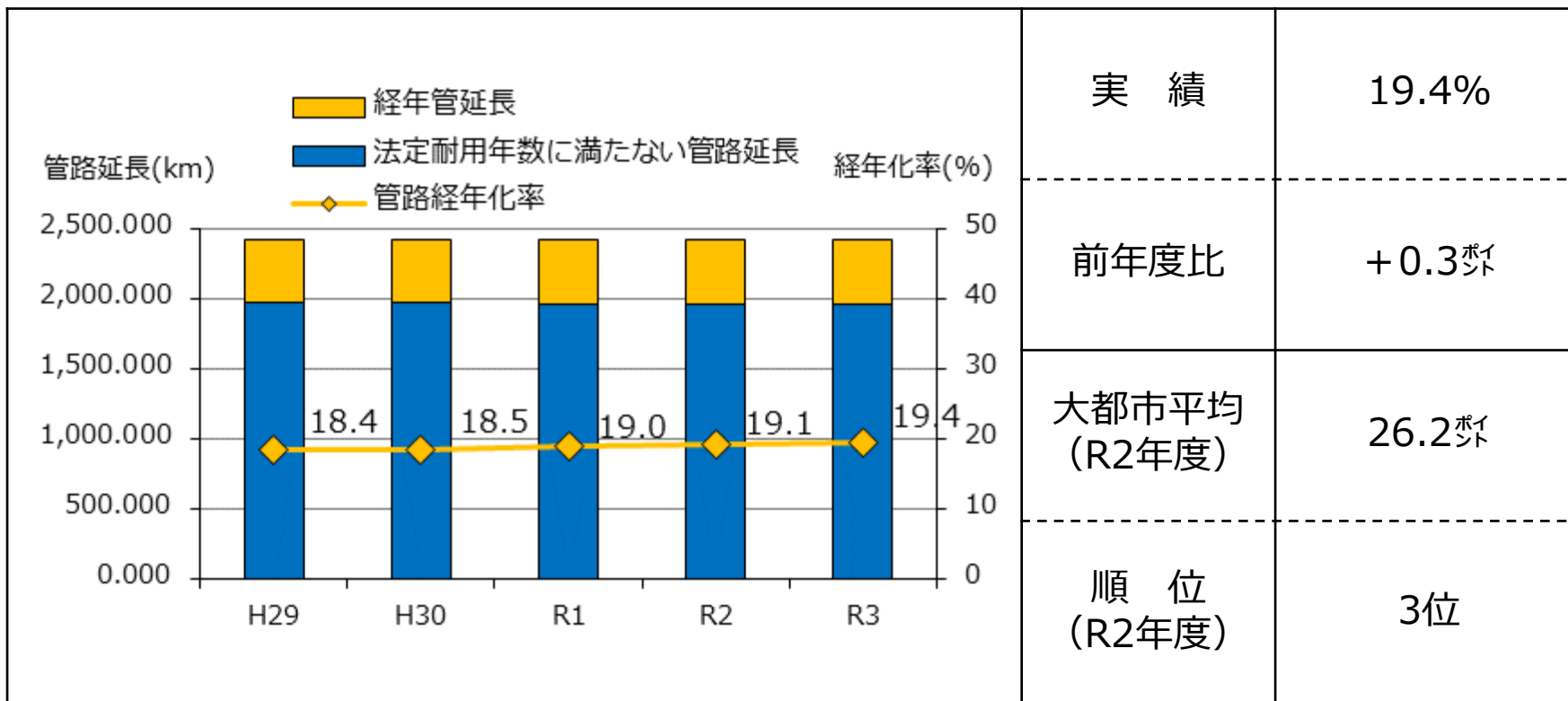
- 100%未満であり、過去の投資に要した企業債の償還は内部留保資金により賄えている。
- 減価償却費の増加により、0.1ポイント低下している。

(経営診断書 P.20)

## ②安定性

### ■ 管路経年化率

[望ましい方向：↓]



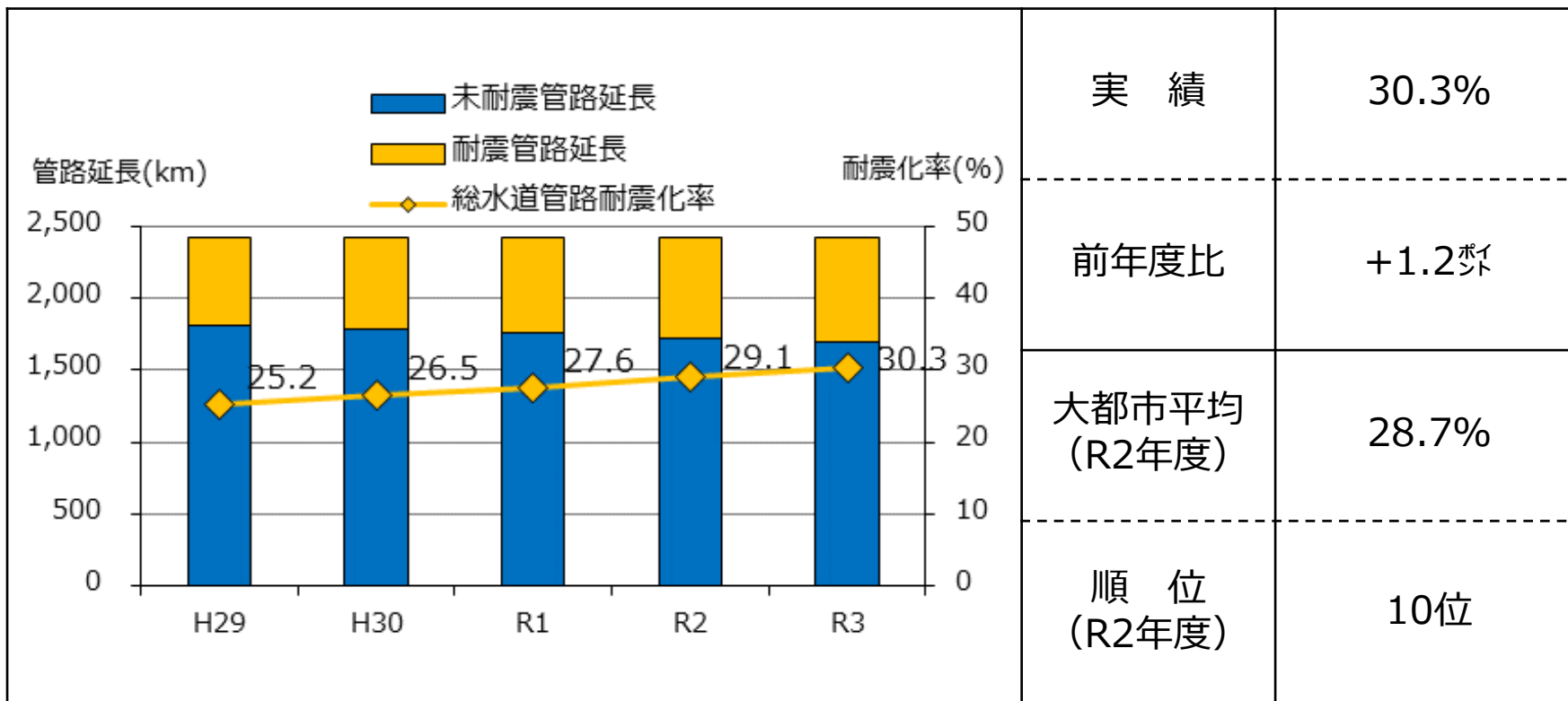
■ 総水道管路約2,425kmに対して、法定耐用年数(40年)を超える水道管路は約470km。

(経営診断書 P.20) ○

## ②安定性

### ■総水道管路耐震化率

〔望ましい方向：↑〕



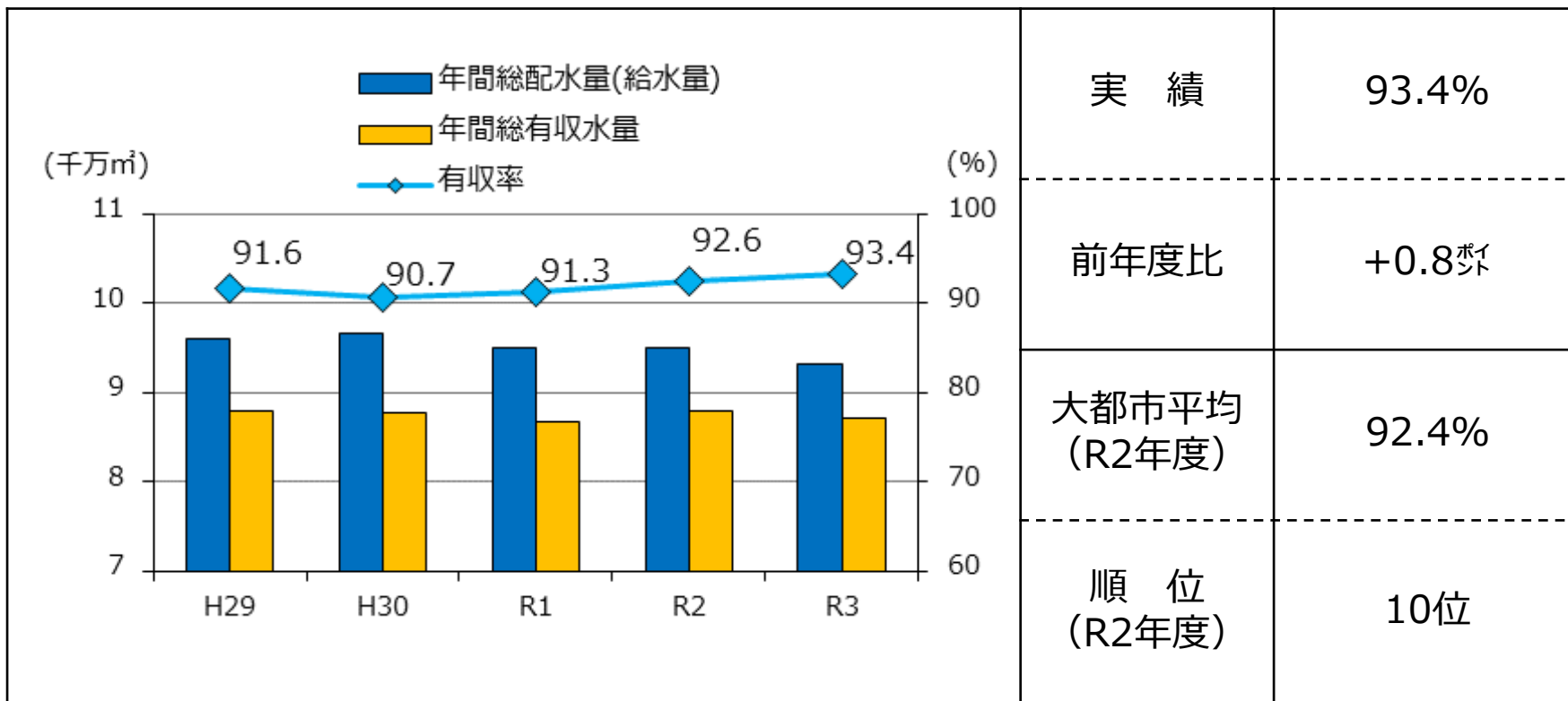
■総水道管路約2,425kmに対して、耐震化された水道管路は約734km。

(経営診断書 P.22)

### ③効率性

#### ■有収率

[望ましい方向：↑]



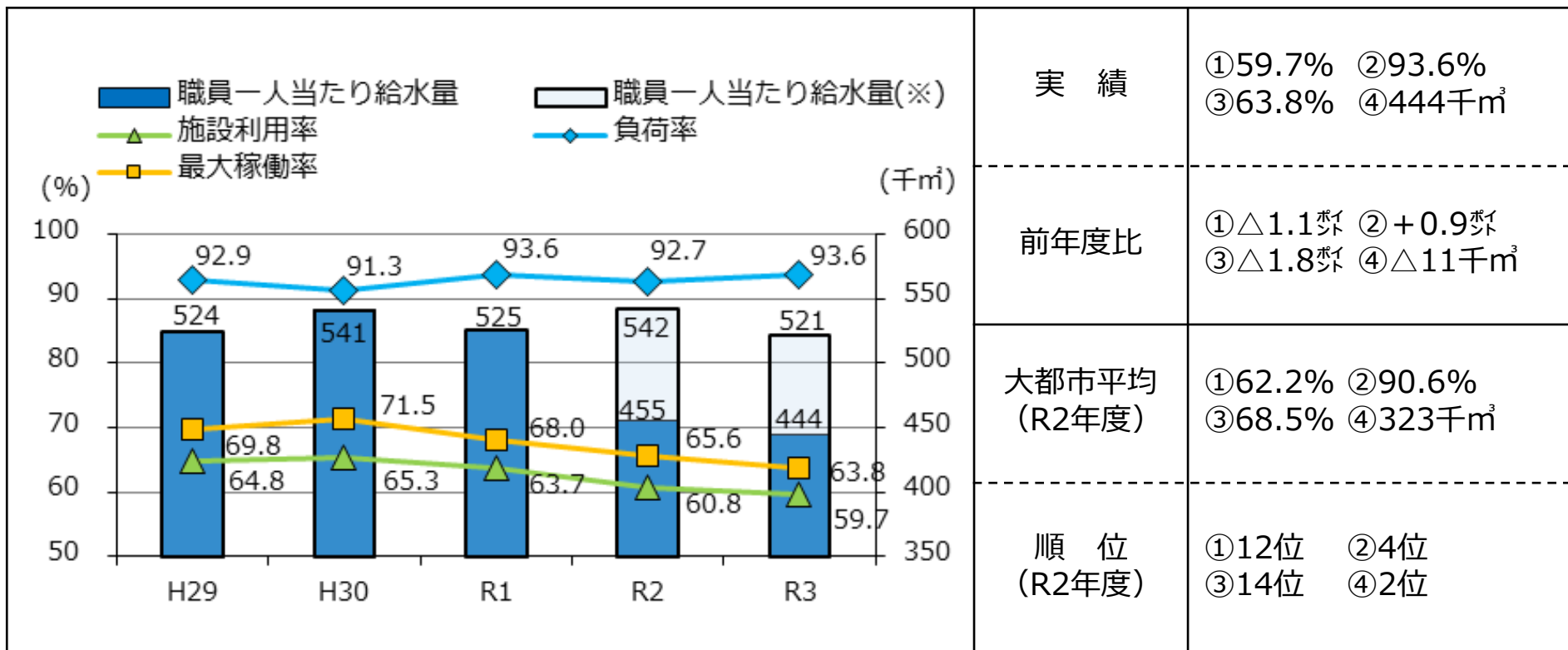
■ 0.8ポイント上昇。

■ 要因としては、経年管路の更新工事のほか、漏水調査実施サイクルの見直しや対象範囲の拡大等、不明水削減の取組みを実施。

(経営診断書 P.22) ○

### ③効率性

①施設利用率 ②負荷率 ③最大稼働率 ④職員1人あたり給水量 [望ましい方向：↑]



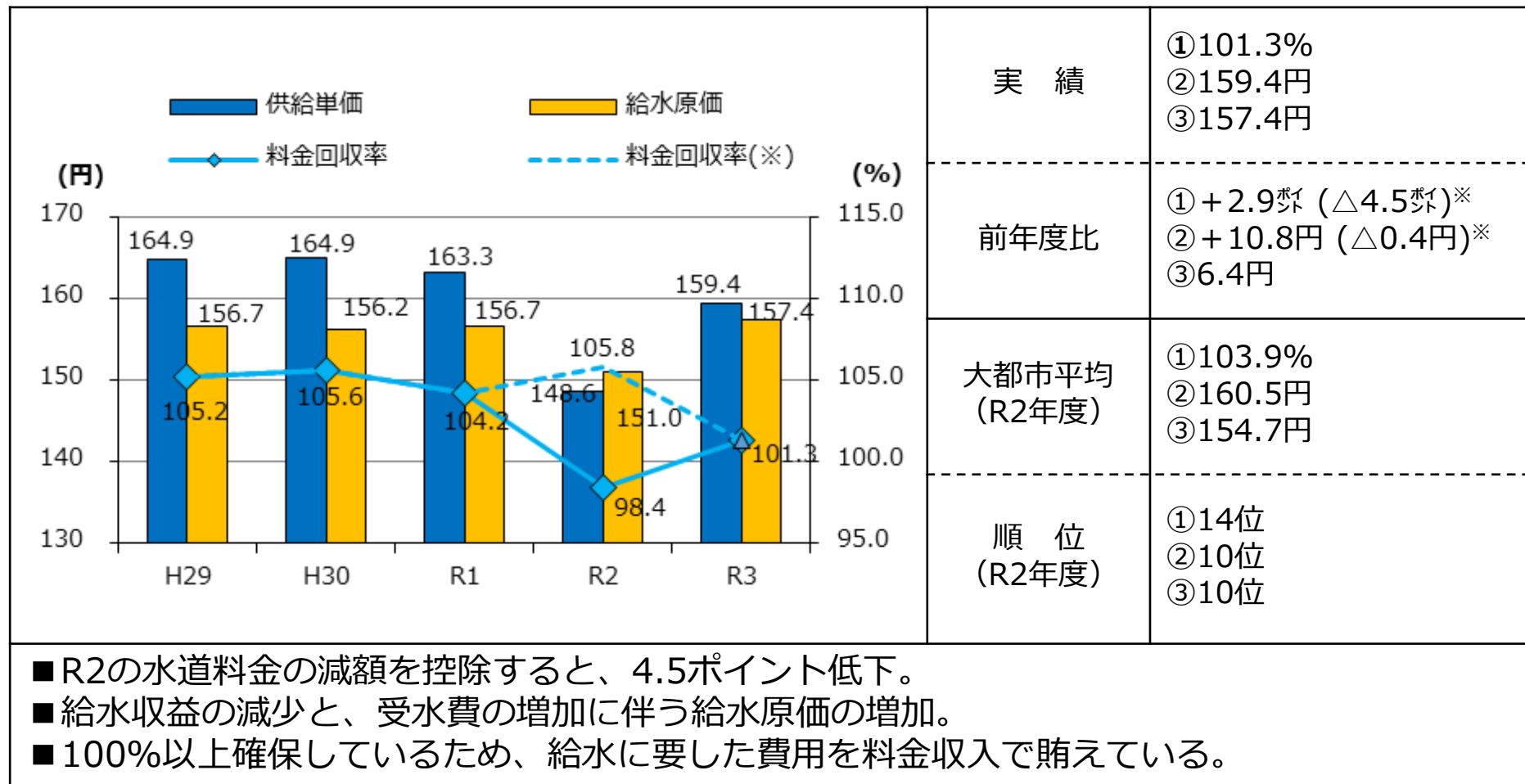
- 1日平均給水量の減少により、施設利用率が減少。
- 1日最大給水量の減少により、負荷率の上昇、最大稼働率の低下。
- 大都市平均と同水準で推移。

### ④料金

(経営診断書 P.24)

①料金回収率 ②供給単価 ③給水原価

[望ましい方向 ① : ↑ ② : ↓ ③ : ↓]



※R2実施の水道基本料金減額の影響を控除した場合との比較



# 水道 給水原価の内訳

項目	費用（百万円）	1 m <sup>3</sup> あたり原価（円）	構成比（%）
人件費	1,586	18.2	11.6
受水費	6,711	77.1	49.0
動力費	53	0.6	0.4
薬品費	1	0.01	0.0
減価償却費	2,940	33.8	21.5
支払利息	424	4.9	3.1
施設維持修繕費	514	5.9	3.7
委託料	1,197	13.8	8.7
（うち営業業務包括委託）	（682）	（7.8）	（5.0）
その他費用	267	3.1	2.0
合計	13,693	157.4	100

(経営診断書 P.25) ○

## ④料金

## ■ 1か月20m3あたり家庭用料金

本市の水道料金：2,464円  <b>【大阪府内43市町村での比較】</b> （R3.10.1時点） ・ 平均値：2,894円 ・ 順位：38位（高い方から数えて）  <b>【大都市21都市での比較】</b> （R4.1.1時点） ・ 平均値：2,652円 ・ 順位：15位（高い方から数えて）	実績	2,464円
	前年度比	±0円
	大都市平均 (R2年度)	2,652円
	順位 (R2年度)	15位
■ 大阪府下では平均を大きく下回り、43市町村中6番目に安価。 ■ 大都市平均と同程度。 ■ 次期ビジョン期間内で適正な料金水準や料金体系を検討。		

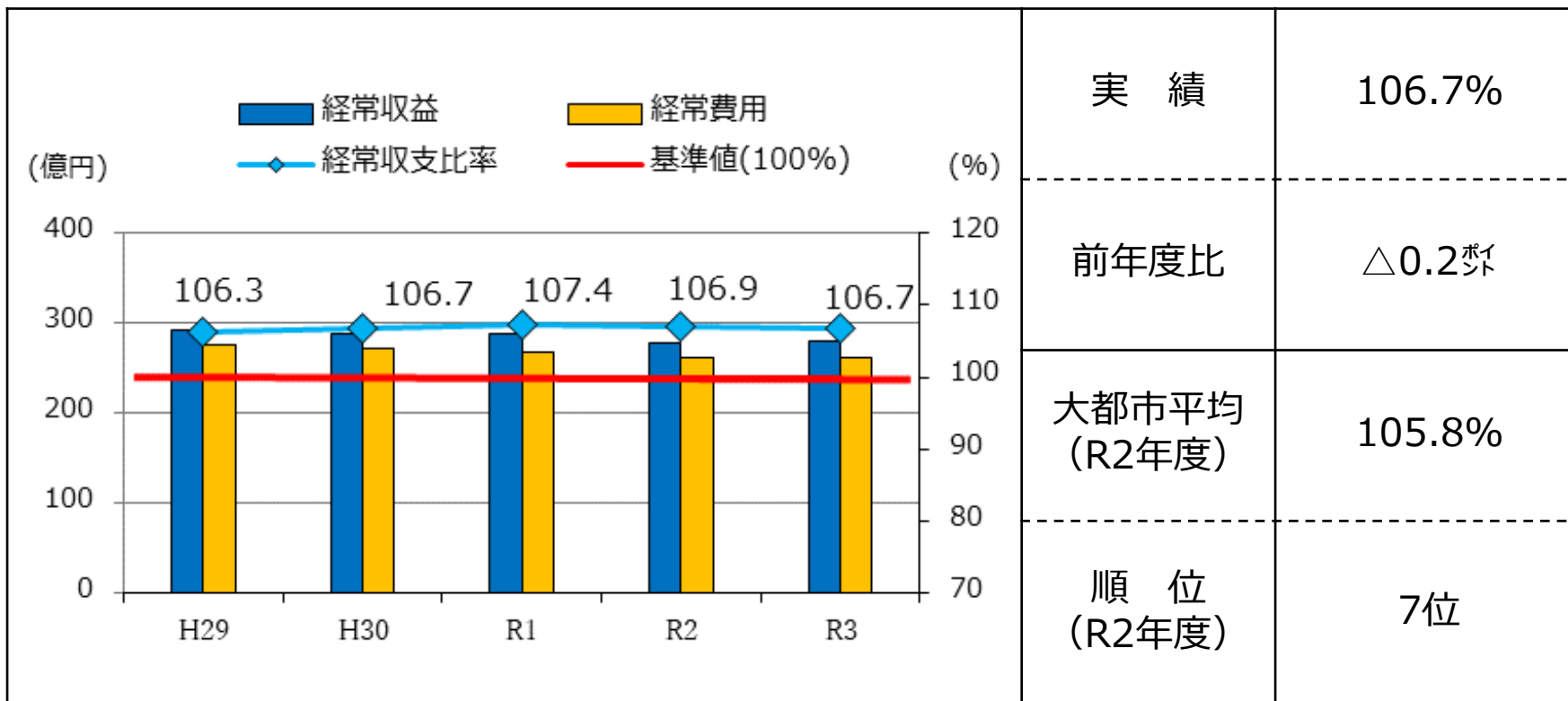
# 下水道事業の経営分析

(経営診断書 P.28)

## ①収益性

### ■ 経常収支比率

[望ましい方向：↑]



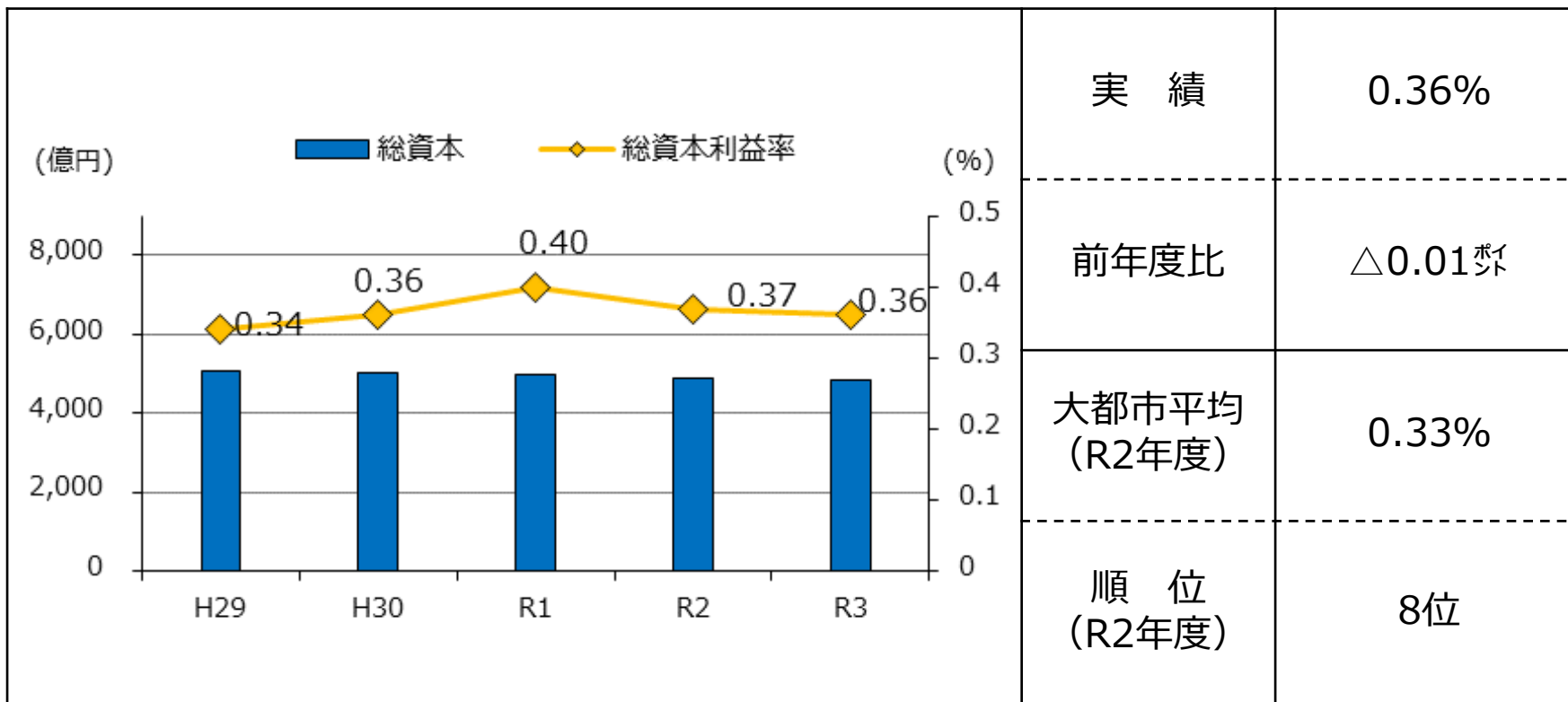
- 収益面では、生活用排水量が約56万<sup>3</sup>m減少した一方、業務営業用配水量は約28万<sup>3</sup>m増加。逓増制により、使用料収入全体では増加。
- 費用面は、支払利息の減少や減価償却費の増加が見られる。

(経営診断書 P.28) ○

## ①収益性

### ■総資本利益率

[望ましい方向：↑]



■分子が経常損益のため、経常収支比率と同じ傾向。

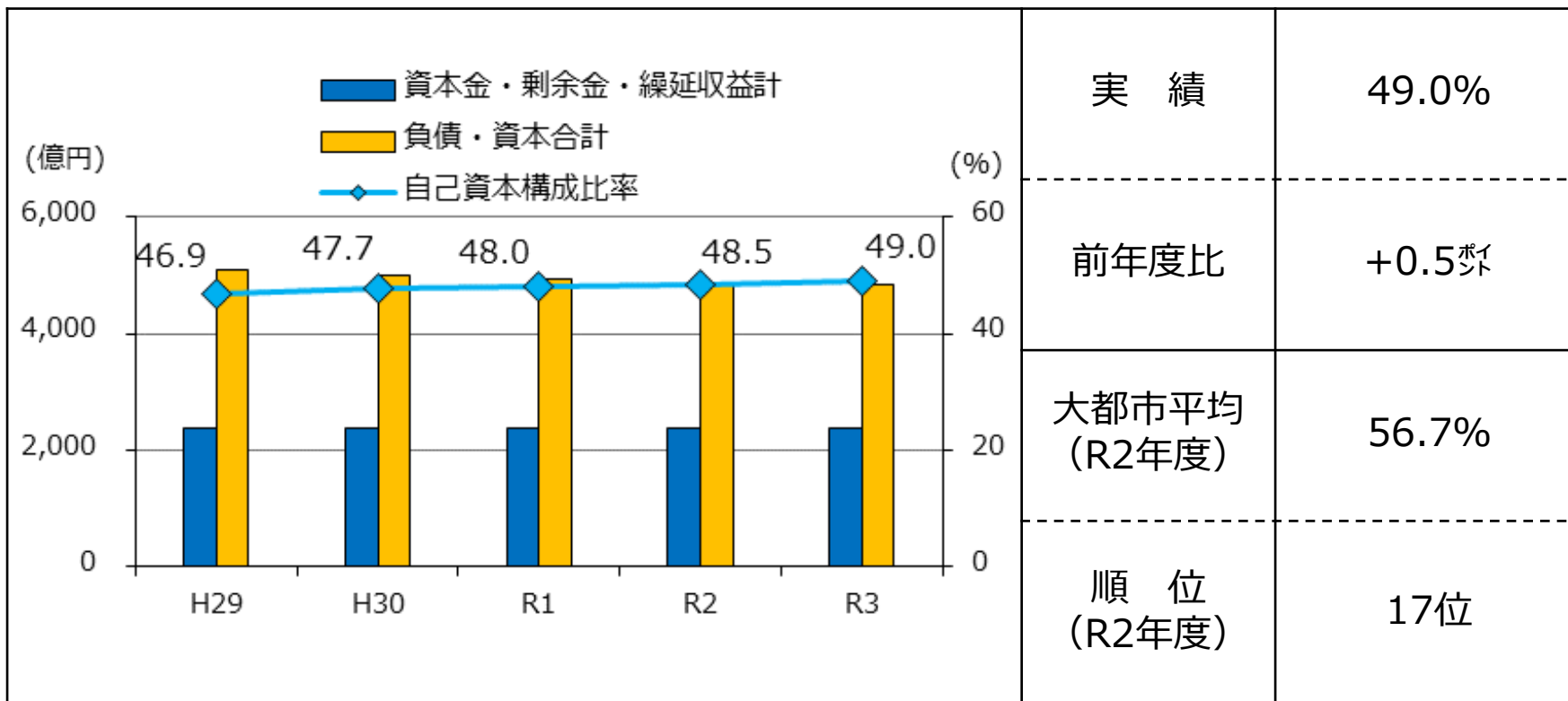
■これまで大都市の水準をやや下回っていたが、近年は上回る傾向。

(経営診断書 P.30)

## ②安定性

### ■自己資本構成比率

[望ましい方向：↑]



■企業債残高の減少（前年度比△45億円）により改善。

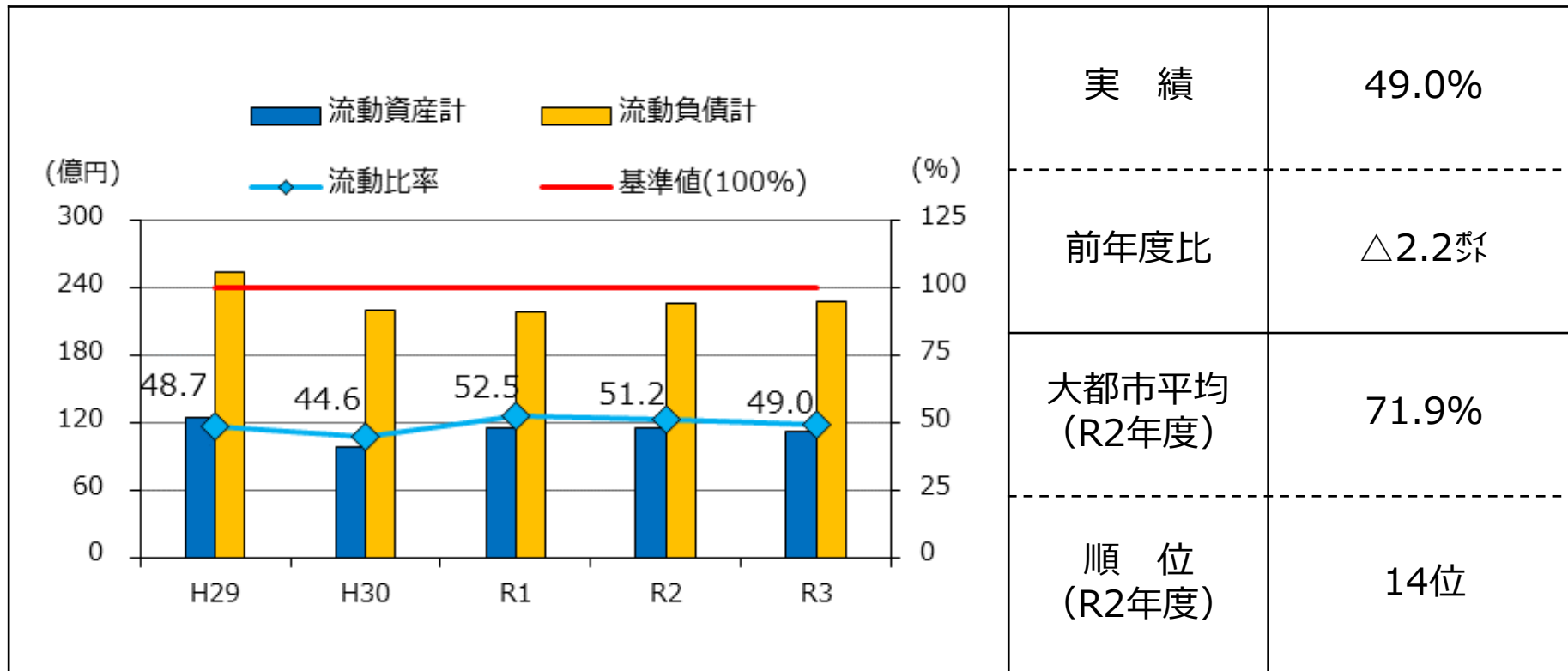
■下水道事業は、施設の築造に必要な資金をほぼ企業債に頼っており、自己資本構成比率は全国的に低い傾向。

(経営診断書 P.30)

## ②安定性

### ■流動比率

[望ましい方向：↑]



- 企業債償還元金が増加した一方、単年度資金収支赤字（約5.2億円）により累積資金が減少。
- 会計制度上、令和4年度の企業債償還元金を流動負債に含める必要がある。  
また、次年度の使用料収入が見込まれるため、100%を下回るが資金不足には陥らない見込。

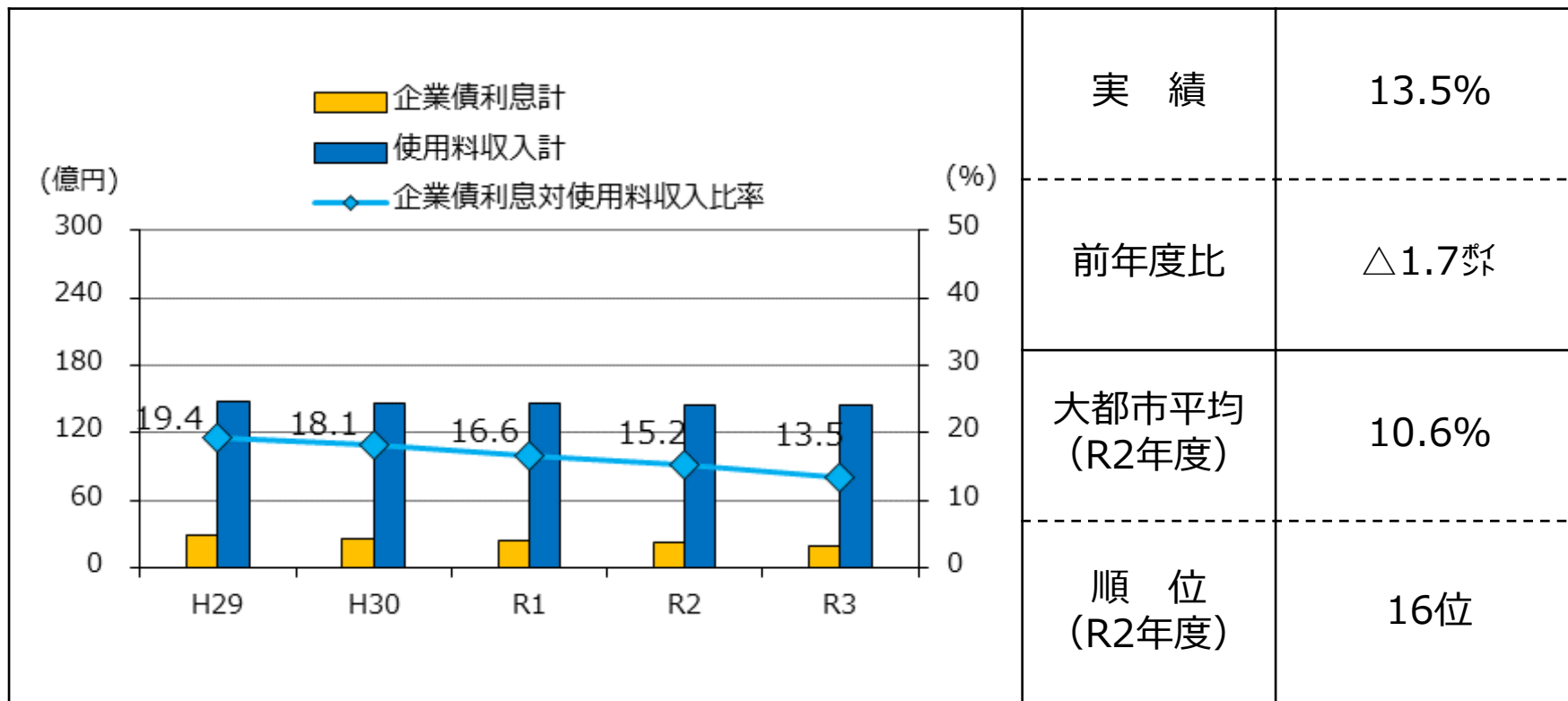


(経営診断書 P.31)

## ②安定性

### ■ 企業債利息対料金収入比率

[望ましい方向：↓]



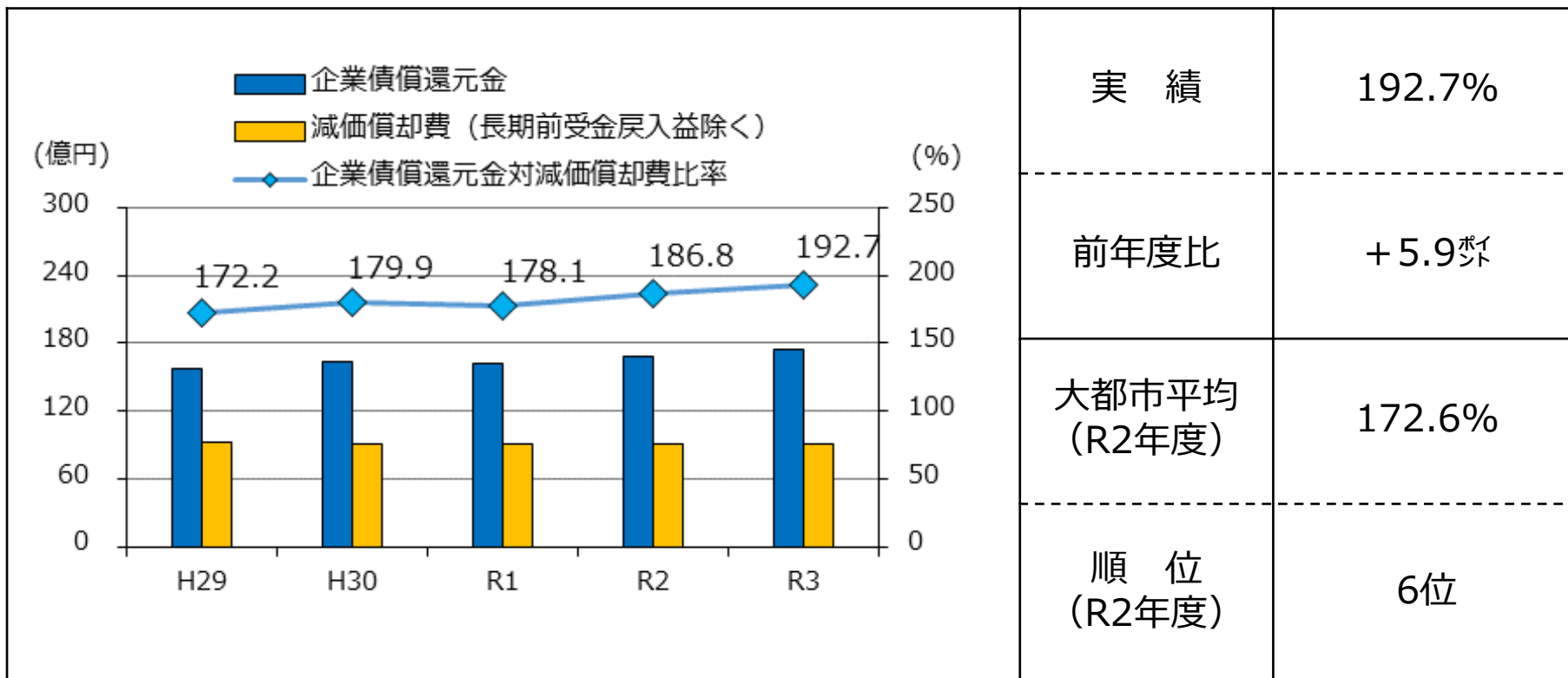
- 平成初期に借り入れた高利率（3%以上）の企業債の償還が進んだことで改善。
- 大都市平均と比べて依然として高い。

(経営診断書 P.31)

## ②安定性

### ■ 企業債償還元金対減価償却費比率

[望ましい方向：↓]



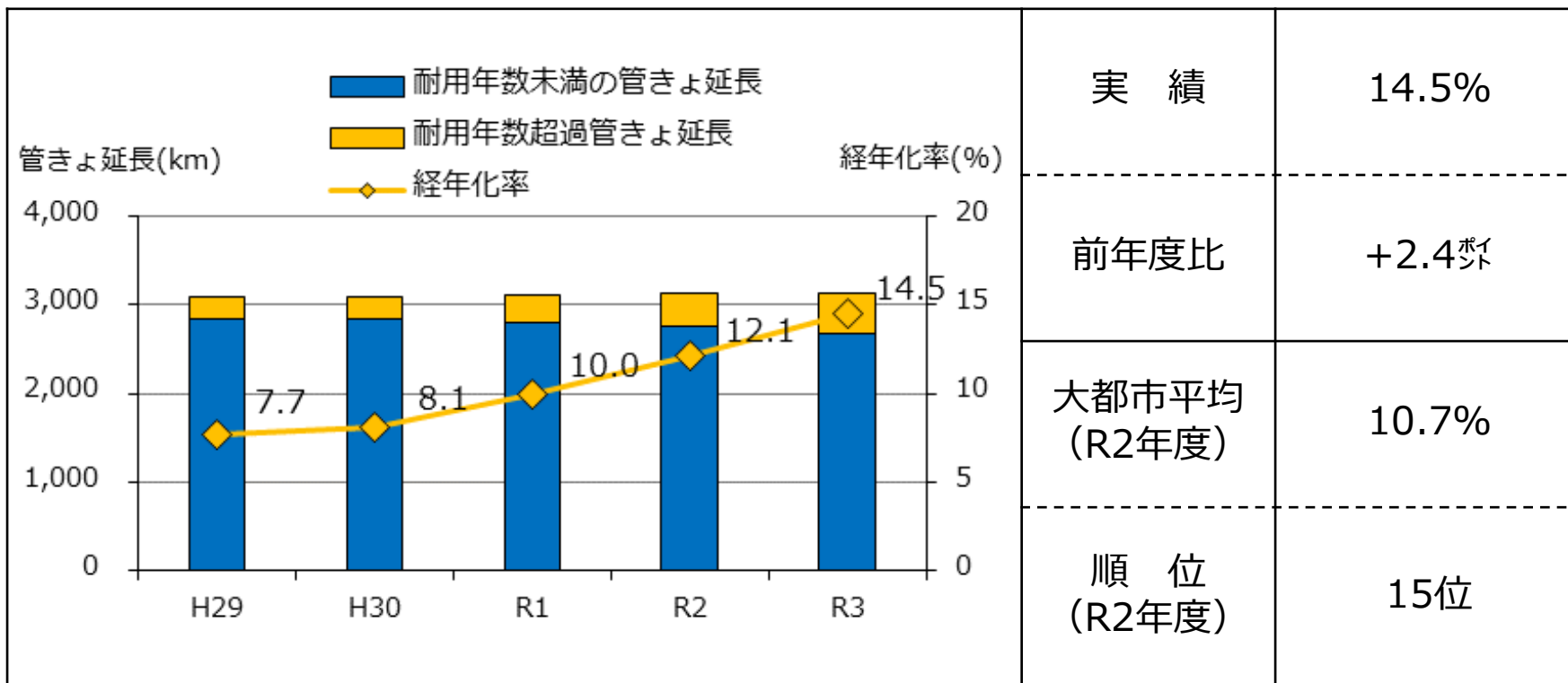
- 近年増加傾向であり、企業債を償還するための財源が不足。
- 企業債償還元金が約7.9億円増加したことが影響。
- 平成初期に借りれた企業債の償還がピークに達するため、増加傾向での推移が予測される。

(経営診断書 P.32)

## ②安定性

### ■管きよ経年化率

〔望ましい方向：↓〕



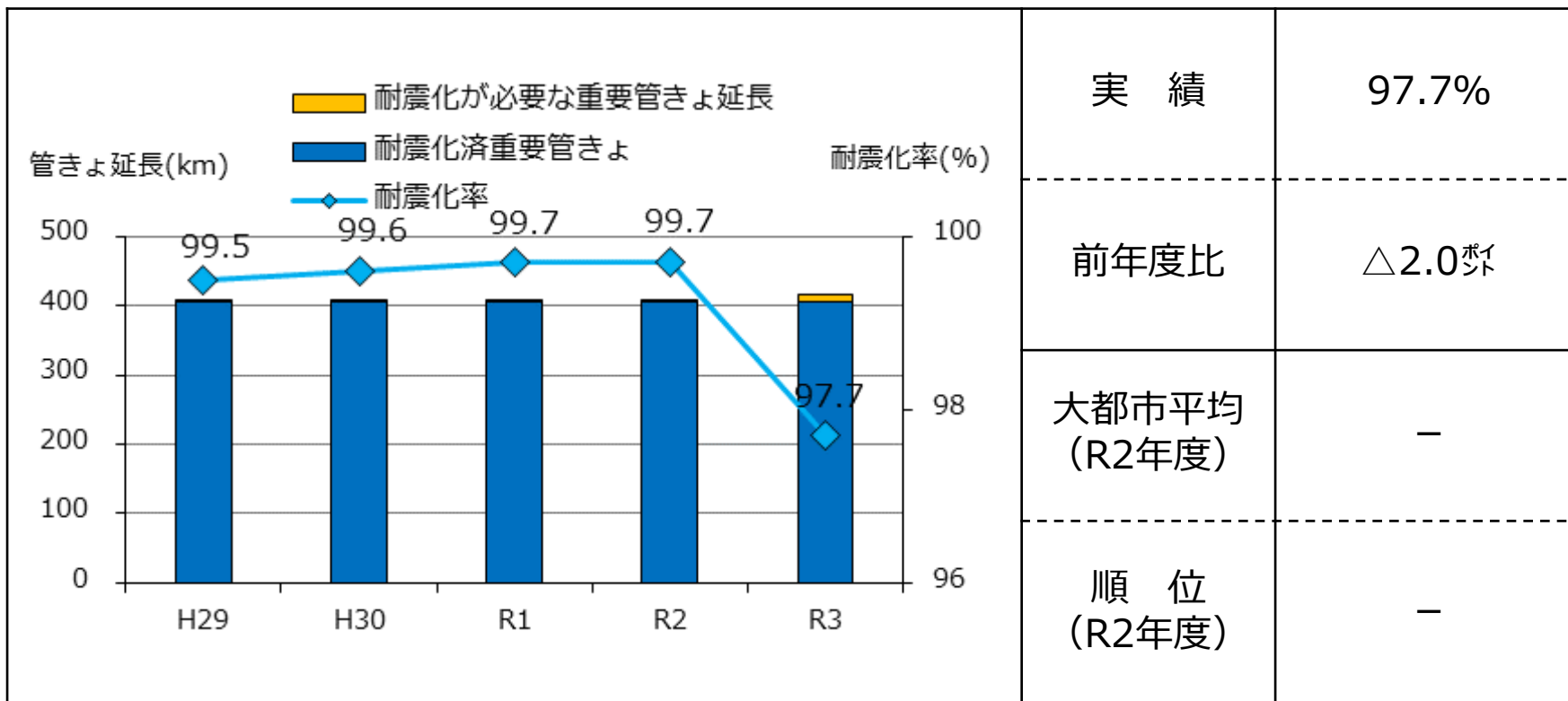
- 管きよ延長約3,133kmに対し、標準耐用年数（50年）を超える管きよは約453km。
- 今後、経年化した管きよは管路調査に基づき目標耐用年数を定め、緊急度の高い管きよを対象に年間25kmのペースで更新することで、投資額を平準化しながら計画的に老朽化対策を進める。

(経営診断書 P.32) ○

## ②安定性

### ■重要な管きよの耐震化率

〔望ましい方向：↑〕

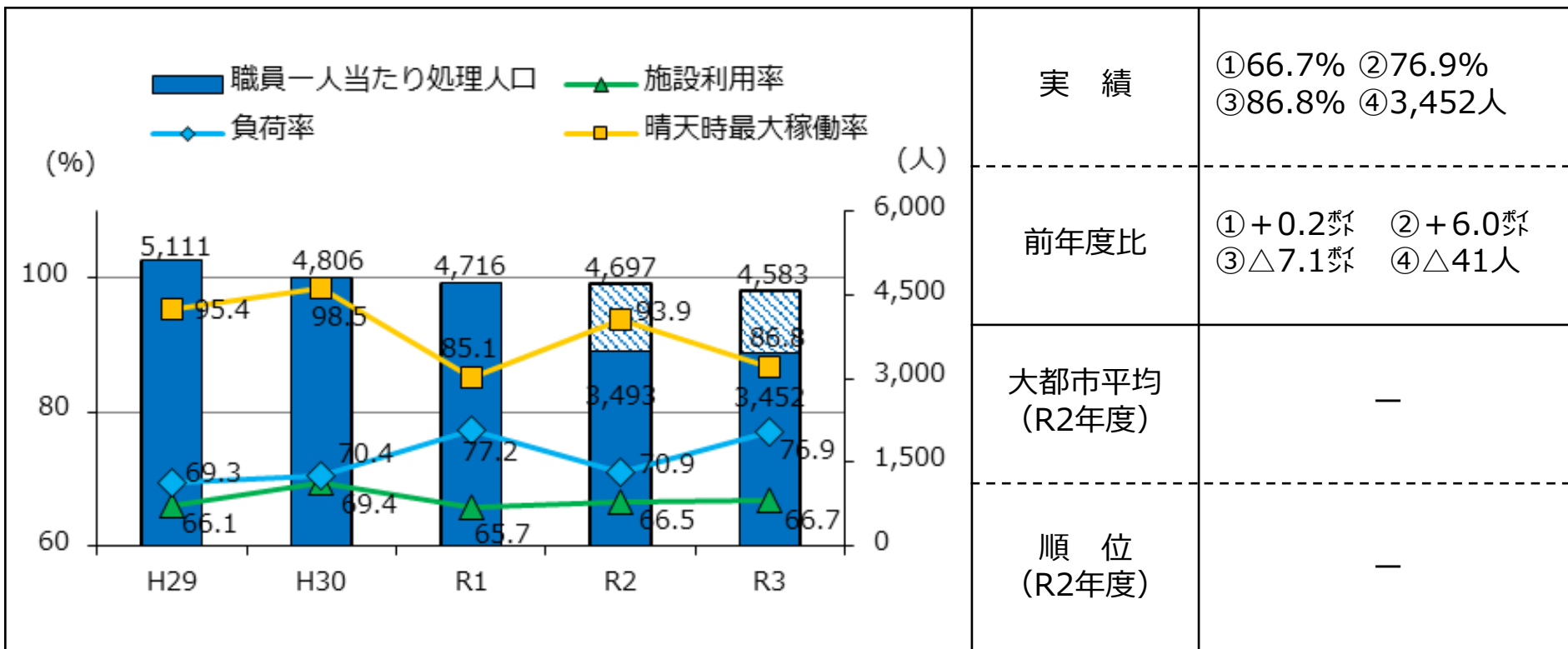


- 耐震化計画策定時に耐震性があると判定した管きよの一部に、陶管など耐震性がない管きよが見つかり、耐震化済み管きよの延長が10km減少。
- 重要管きよ延長約420.0kmに対し、耐震化された管きよは約410.3kmであり、概ね耐震性能を確保できている。

(経営診断書 P.34) ○

### ③効率性

①施設利用率 ②負荷率 ③最大稼働率 ④職員1人あたり処理人口 [望ましい方向：↑]



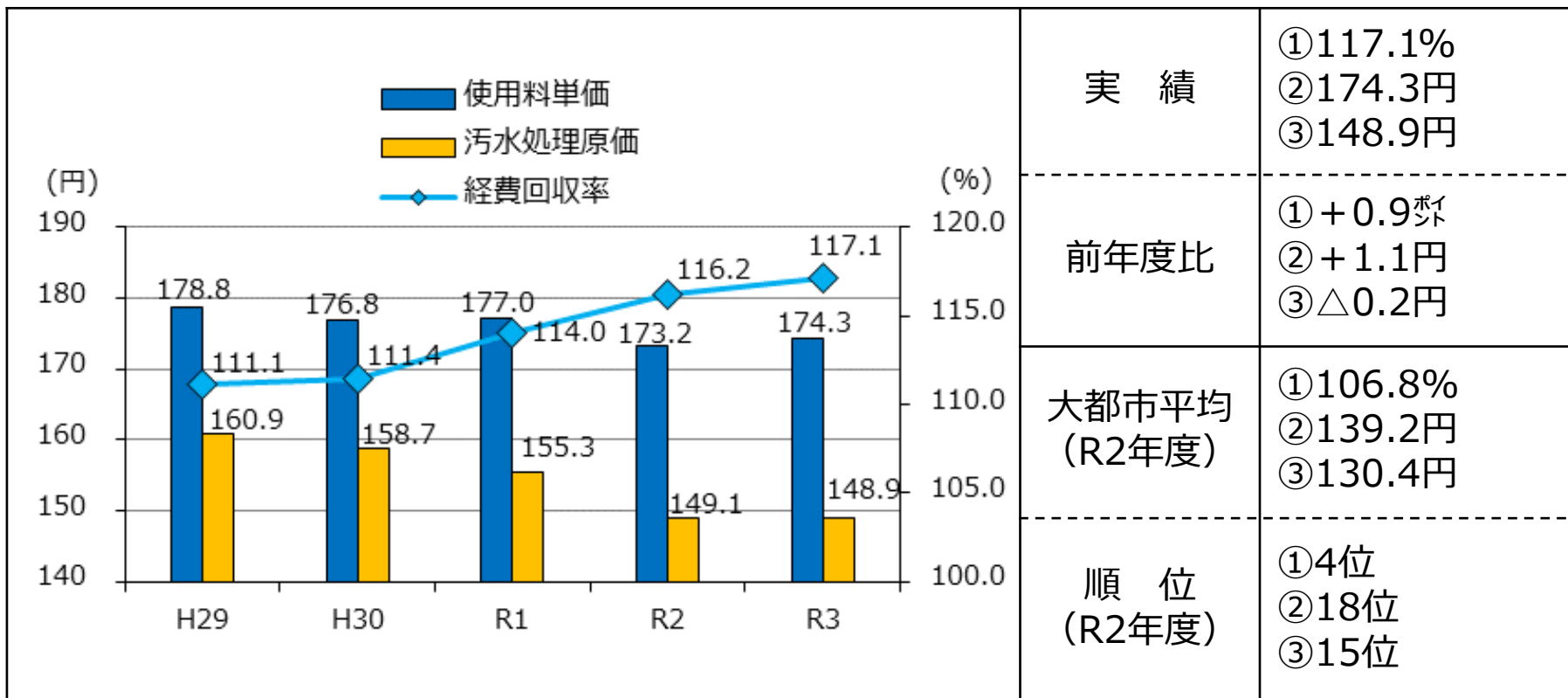
- 施設利用率は、降雨量の増加の影響を受け、一日平均処理水量が増加し前年比+0.2ポイント
- 負荷率は目安となる70~80%を満足している。
- 晴天日最大稼働率も100%を超えておらず、年間通して汚水を適切に処理できている。
- 職員一人当たりの処理人口は例年並みの水準であることから、生産性が維持できている。

(経営診断書 P.36)

### ④料金

①経費回収率 ②使用料単価 ③汚水処理原価

[望ましい方向 ①：↑ ②：↓ ③：↓]



- 支払利息や人件費の減少により、汚水処置原価が低減し、経費回収率が0.9ポイント上昇。
- 100%以上確保できているため、汚水処理にかかる費用は、使用料収入で賄える。
- 高利率の企業債の償還が進んだことや経営努力の結果、経費回収率は大都市内で高い水準。

# 下水道 汚水処理原価内訳

項目	費用（百万円）	1 m <sup>3</sup> あたり原価（円）	構成比（%）
人件費	757	9.1	6.1
動力費	390	4.7	3.2
薬品費	28	0.3	0.2
修繕費	195	2.4	1.6
委託料	1,847	22.2	14.9
（うち大阪府への汚泥処理委託経費）	（582）	（7.0）	（4.7）
（うち包括委託分）	（1,157）	（13.9）	（9.4）
減価償却費	5,375	64.7	43.5
支払利息	1,957	23.6	15.8
その他費用	1,815	21.9	14.7
（うち流域下水維持管理負担金）	（737）	（8.9）	（6.0）
合計	12,364	148.9	100

(経営診断書 P.36) ○

## ④料金

### ■ 1か月20m<sup>3</sup>あたり家庭用料金

本市の下水道使用料：2,821円  【大阪府内43市町村での比較】(R3.10.1時点) ・ 平均値：2,319円 ・ 順位：7位(高い方から数えて)  【大都市21都市での比較】(R3.1.1時点) ・ 平均値：2,241円 ・ 順位：4位(高い方から数えて)	実績	2,821円
	前年度比	±0円
	大都市平均 (R2年度)	2,241円
	順位 (R2年度)	4位
■ 近年の急速な下水道整備の際に借り入れた企業債の支払利息や減価償却費が、使用料の算定に影響を与えている。 ■ 平成29年10月検針分からの引き下げにより、府内で高い方から2位から7位、大都市内で3位から4位に位置している。		